□　選択　☑　必修		☑　講義　□　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
医療倫理学	平塚　健太	2	1	前期

授業概要	臨床で求められる医の倫理感を身に着ける基礎となる講義を行う
到達目標	臨床における倫理観，マナー，常識を知り，理解できるようになる

授業計画

1	倫理とは	オリエンテーション・倫理の概要を理解する
2	医療における倫理	医療倫理の4原則について理解し、考えを述べることができる
3	医療者と患者の関係①	医療面接の基本的な考えを理解し、考えを述べることができる
4	医療者と患者の関係②	医療面接の手法を理解し、考えを述べることができる
5	コメディカルの職業倫理①	理学療法士・作業療法士の職業倫理を理解する
6	コメディカルの職業倫理②	理学療法士・作業療法士の職業倫理を理解し、考えを述べることができる
7	生命誕生のあらまし①	出生前診断，胚選別，妊娠中絶について理解する
8	生命誕生のあらまし②	出生前診断，胚選別，妊娠中絶について理解し、考えを述べることができる
9	薬害と医療事故	薬害の歴史や医療事故について理解し、考えを述べることができる
10	人工臓器	ES　幹細胞移植　iPS細胞の治療や倫理的問題を理解する
11	臨床研究の倫理①	臨床研究における倫理の歴史を基に考えを述べることができる
12	臨床研究の倫理②	臨床研究における倫理の歴史を基に考えを述べることができる
13	障害の受容	障害を受け入れる過程について理解する
14	終末期医療，安楽死と尊厳死	終末医療と尊厳死について理解を深め，自分の考えを述べることができる
15	まとめ	症例課題に基づき自分の考えをまとめ，述べることができる

教科書	必要に応じて提示する	履修条件	15回の講義なので４回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	教養としての生命倫理	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

□　選択　☑　必修			☑　講義　□　演習　□　実習	
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
心理学	林　美都子	2	1	前期

授業概要	人の認知機能からメンタル・心の在り方，対人関係までの仕組みを講義する
到達目標	人の心の在り方を理解し，他者の気持ちに寄り添えるような思考を持てるようになる

授業計画

1	認知心理学の歴史について	認知心理学の歴史から現代の心理学について学ぶ
2	人間の心理機能①「認知」	精神，心について現代の心理学を踏まえ理解できる
3	人間の心理機能②「知覚」	時間・空間・運動の知覚/知覚の諸相 について理解できる
4	人間の心理機能③「学習」	古典的条件づけ，オペラント条件づけ，観察学習について理解できる
5	人間の心理機能④「記憶」	記憶のメカニズム，忘却，記憶の歪みについて理解できる
6	人間の心理機能⑤「動機づけ」	動機づけの分類と機能，自己効力，学習性無気力について学習し，セルフエフィカシーの測定演習を行い動機づけについて理解を深める
7	人間の心理機能⑥「感情」	感情発生のメカニズムと機能，欲求不満について理解を深める
8	まとめ	人間の心理機能①～⑥までの内容を総括し理解を深める（小テストも実施する）
9	メンタルヘルスとストレス	具体的にストレス度の測定を演習し，ストレスの考え方やメンタルヘルスについて理解を深める
10	パーソナリティ	パーソナリティの記述法，測定法について理解する
11	人間の心理機能⑦「知能」	知能の定義，知能の測定法を学習し，人間の社会生活に影響する知的障害とは何かを理解する
12	人間の心理機能⑧「思考」	思考とはなにか，問題解決能力とは何かを考察し，創造性の本質について理解する
13	人間の心理機能⑨「決定」	効用の評価や確率の判断について理解する
14	メタ認知について	メタ認知について理解し，自己洞察についての方法を考えることができる
15	認知心理学の今後	認知心理学を日常生活でどのように活用するか，しているかについて理解できる

教科書	・心理学（第5版） ・基礎から学ぶ認知心理学　人間の認識の不思議	履修条件	15回の講義なので，４回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

函館市医師会看護・リハビリテーション学院　作業療法学科

□　選択　☑　必修		□　講義　☑　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
コミュニケーション英語	阿部　ジョスリン	2	1	前期

授業概要	Essential English language for a variety of situations in the hospital（病院内のさまざまな場面で必要な英語表現）
到達目標	Students will be able to use English in a variety of situations in the hospital（病院内の様々な場面で英語を使うことができる）

授業計画

1	Introduction to class, teacher and students（クラス・講師・生徒紹介）	Questions and answers to better know each other using 'Are you..., Do you..., Can you..., and Were you...?'（Are you..., Do you..., Can you..., and Were you...?を使った質問と答え）
2	Unit 1 Hospital Departments（病院部門）	Using the present tense to describe hospital departments（病院の診療科を現在系で表現する）
3	Unit 2 Application Forms（各種申請書類）	Subject-Verb agreement to learn how to complete hospital forms（主語と動詞の一致で、病院の書類の書き方を学ぶ）
4	Unit 3 Parts of the Body（体の部位）	Using the present continuous tense to talk about medical problems（現在進行形を使って医療問題を語る）
5	Unit 4 Illnesses（病気について）	Using the simple past tense and have/be verbs to talk about illnesses and their symptoms（単純過去形とhave/be動詞を使って、病気やその症状について話すことができるようになる）
6	Review Units 1-4（復習）	Review of Units 1-4 from the textbook（教科書のUnit1～4の復習）
7	Unit 5 Daily Routine（日課）	Using Auxiliary verbs to ask and answer questions concerning daily routines and time（助動詞を使って、日常生活や時間に関する質問をしたり、答えたりする）
8	Unit 6 Hospital instruments（医療機器）	Using the future tense to talk about instruments used in a hospital（病院で使用する器具について話すために未来形を使う）
9	Unit 7 Locations of Hospital Instruments（医療機器の設置場所）	Using the continuous tenses to learn about locations（進行形を使って場所について学ぶ）
10	Unit 8 Hospital Directions and instructions（病院への行き方・指示）	Using the imperative for to give directions and instructions（指示や命令をするための命令形の使い方）
11	Review Units 5-8（復習）	Review of Units 5-8 from the textbook（教科書のUnit5～8の復習）
12	Unit 9 Directions outside the hospital（院外への道順）	Using the active and passive voice to give directions to locations outside the hospital（院外への道案内を能動態と受動態で使い分ける）
13	Unit 10 Chatting with a patient（患者さんとのおしゃべり）	Using a variety of tenses and frequency adverbs to talk about hobbies, likes/dislikes, frequency, etc.（趣味や好き嫌い、頻度などについて、さまざまな時制や頻度副詞を使って話す）
14	Unit 11 Talking about Medical History（病歴を語る）	Using the present perfect tense to talk about a patient's medical history（患者の病歴を話すために現在完了形を使う）
15	Unit 12 Hospital Procedures（病院での手続き）	Using Tag questions to ask and answer tag questions to give instructions to patients（タグクエスチョンを使って、患者さんに指示を出すためのタグクエスチョンとそれに答えるための質問）

教科書	Vital Signs (Revised Edition) by Vivian Morooka and Terri Sugiura, publised by Nan'un-do	履修条件	Attendance in all 15 classes is essential（15回の講義なので、4回以上の欠席で単位が修得できない）
参考書	特に無し	留意事項等	Both preparation and review are important（予習と復習の両方が重要）
成績評価	中間試験・期末試験の結果により総合的に判断		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
臨床コミュニケーション学概論	佐藤　香織	2	1	後期
授業概要	リハビリテーション職には文章で伝える技術が必須である。抄録・論文を作成するにあたって伝わりやすい文章の作成、適切な文法や文字、読解力などを学ぶ			
到達目標	自らの考えを表出する文章を作成できる。また文章の読解力を向上させることができる			

授業計画

1 2	話し方と聴き方	・一般社会において適切なマナーで、わかりやすく会話をする意味を知る ・相手の訴えや情報について聞き、理解できる能力を向上できる
3 4 5 6	文章の理解について	・新聞や書物等の文書を読み、どのようのことが記載されているのかを理解する能力を向上させる。 ・多くの短文から始まり、長文理解を養うことができる
7 8 9 10	文章の理解について	・新聞や書物等の文書を読み、読解を学ぶことができる ・内容把握や趣旨把握の力を向上できる ・長文を読み、文脈や意図などを理解できる
11 12 13 14 15	文章の作成の方法	・短い文章を作成し文章の構成力を高める ・新聞や書物等の文書を読み、読解を高めることができる ・正しく伝わりやすい文章を作成する方法を理解する

教科書	講義では適宜資料を配布する	履修条件	授業の５分１欠席で期末試験の受験資格を失う
参考書		留意事項等	予習復習を怠らないこと
成績評価	・中間テストと期末テストの総合評価とする		
備考			

□　選択　☑　必修			☑　講義　□　演習　□　実習	
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
医療物理学	古館　裕大	2	1	前期

授業概要	リハビリにおける治療やヒトの身体の動きをイメージできるための基礎となる講義を行う．本講義は，運動学（1年前期）や種々の専門科目と密接な繋がりがある．
到達目標	PT・OTに必要不可欠である物理学の基礎を理解できるようになる．特に，複雑な現象の背後に存在する仕組みを明らかにし，単純なモデルで考えられるようになる．

授業計画

1	オリエンテーション・基礎数学①（単位換算）	本講義の概要，医療物理学の必要性を把握できる．また，SI基本単位，SI組立単位の換算ができるようになる．
2	基礎数学②（三角比・ベクトル）	医療物理学で用いる基礎的な数学を復習できる．特に，三角比とベクトルの考え方を利用する事ができる．
3	位置，速度，加速度	物体の運動を考える方法と，物体の位置，速度，加速度を理解できる．
4	力とモーメント①（力のつり合い）	力のつり合いについて理解でき，簡単な計算ができる．
5	力とモーメント②（3種のてことモーメント）	関節運動の基本的な考え方であるモーメントの考え方と，3種のてこについて理解できる．
6	力とモーメント③（モーメントのつり合い）	モーメントのつり合いについて，簡単な計算ができる．
7	運動の分析①（重心と支持基底面）	重心と支持基底面の考え方が理解でき，簡単な計算ができる．
8	運動の分析②（関節運動）	関節運動をベクトルを用いて表現することができる．
9	医療機器の物理①（温度と熱）	中間試験を通して自身の理解度を確認できる．熱を利用した治療・医療機器を学ぶための基本的な仕組みについて理解できる．
10	医療機器の物理 ②（波）	波を利用した治療・医療機器を学ぶための基本的な仕組みについて理解できる．
11	医療機器の物理 ③（電磁気）	波・電磁気を利用した治療・医療機器を学ぶための基本的な仕組みについて理解できる．
12	医療機器の物理 ④（電磁気）	電磁気を利用した治療・医療機器を学ぶための基本的な仕組みについて理解できる．
13	医療機器の物理⑤（物理療法の基礎）	物理学的な観点から，物理療法の種類とその概要を理解できる．
14	医療物理学まとめ①	力学の範囲内で国家試験で出題される問題を演習し，これまでに学んだ内容を復習する事ができる
15	医療物理学まとめ②	熱，波，電磁気の範囲で国家試験で出題される問題を演習し，これまでに学んだ内容を復習する事ができる

教科書	PT・OTゼロからの物理学	履修条件	15回の講義の内，4回以上欠席の場合は単位が取得できない
参考書	特になし	留意事項等	講義の最中に不明な点が現れた時は，いつでも教員にアクセスする事
成績評価	小テスト，期末試験，課題により総合的に評価		
備考	特になし		

□　選択　☑　必修			☑　講義　□　演習　□　実習	
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
医療統計学	古館　裕大	2	1	後期

授業概要	統計学の基本的な考え方と，医療への応用を見据えた内容を扱う．本講義は，理学療法研究法（1年後期）と作業療法研究法（1年後期）と密接な関連がある．
到達目標	データ処理の基本的な考え方や手法を理解できる．また，実際にデータを取得してR言語による解析を行う事で，どのようにデータを処理するかをイメージできる．

授業計画

1	オリエンテーション・ 基礎数学①（確率の考え方）	統計学の必要性について理解できる．また，簡単な事例や計算を用いて，確率の考え方が理解できる．
2	基礎数学② （同時確率，条件付き確率）	簡単な事例を用いて，同時確率と条件付き確率の考え方が理解できる．
3	記述統計学① （データの尺度と要約）	質的変数，量的変数について理解できる．また，それらのデータの代表値の意味を理解できる．
4	記述統計学② （グラフの読み取りと描画）	質的変数に関するグラフの読み取りと描画ができるようになる．
5	記述統計学③ （グラフの読み取りと描画）	量的変数に関するグラフの読み取りと描画ができるようになる．
6	記述統計学④ （グラフの読み取りと描画）	2変量のグラフの読み取りと描画ができるようになる
7	記述統計学まとめ	与えられた実例に対して，データの要約と可視化ができるようになる
8	統計モデリング概論① （実世界とモデルについて）	解析の対象となる実世界をモデル化する手続きについて理解できる．具体的には，モデルをデータで試験するという考え方が理解できる．
9	統計モデリング概論② （母集団と標本）	母集団と標本の考え方を理解できる．また，標本が母集団を上手く表象しない現象（バイアス）についても理解できる．
10	統計的仮説検定① （検定の手続き）	モデルを試験する手段の1つである，統計的仮説検定の流れを理解できる．具体的には，帰無仮説と対立仮説，第1種の過誤と第2種の過誤について理解できる．
11	統計的仮説検定② （カイ二乗検定）	統計的仮説検定の実例として，カイ二乗検定を理解することができる．
12	統計的仮説検定③ （平均値の差の検定）	統計的仮説検定の実例として，対応のあるt検定と対応のないt検定を理解することができる．
13	統計的仮説検定④ （ノンパラメトリック検定）	統計的仮説検定の実例として，ノンパラメトリック検定を理解することができる．
14	統計的仮説検定⑤ （P値と信頼区間）	「統計的有意性とP値に関するASA声明」に基づいたP値の考え方について理解できる．また，統計的仮説検定と信頼区間の関係を理解できる．
15	医療統計学関連トピック （診断能力の評価）	感度，特異度，陽性尤度比の意味を理解でき，実際に計算できるようになる．

教科書	はじめてのR：ごく初歩の操作から 統計解析の導入まで	履修条件	15回の講義の内，4回以上欠席の場合は単位が取得できない
参考書	特になし	留意事項等	講義の最中に不明な点が現れた時は，いつでも教員にアクセスする事
成績評価	中間試験、期末試験、小テストにより総合的に評価		
備考			

□　選択　☑　必修		□　講義　☑　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
医療情報科学演習Ⅰ	外舘　洸平	1	1	前期

授業概要	パソコン操作を不便なく行うことができ、ICT化する臨床現場に対応できるように推奨する情報収集のあり方などを、講義・演習を通して習得できる
到達目標	パソコンの基本的な使用方法と情報リテラシーを身に着け、自身で取りまとめた情報を対外的に公開することができるようになる

授業計画

1	オリエンテーション	パソコンの基本的な操作を習得することができる
2	Gmail、Google Classroom	メールでの連絡方法、およびGoogle Classroomを使用した課題の提出方法を習得することができる
3	OneNote	OneNoteを使用して授業のノートをとることができる
4	Word	文章を入力などの基本的な操作、レイアウト変更や図表の挿入ができ、見やすい文章を作成することができる
5	PowerPoint	基本的な操作を理解し、プレゼンテーション用の資料を作成することができる
6	Excel	基本的な操作を理解し、グラフ作成、関数を使用した計算を行うことができる
7	情報リテラシー①	自他の個人情報の重要性を知り，個人情報を守るために正しく対処できる
8	情報リテラシー②	文献検索の意義を理解し、文献検索を行うことができる。また、著作物に関する権利を理解し、正しく用いることができる。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書	資料配布	履修条件	8回の講義なので，3回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	必要に応じて提示する	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	各回で課題の提出を求め、提出物が指定された条件を満たしているか採点する		
備考	基本操作の紹介は行うが、操作の習熟は各自の自己練習に期待したい		

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☑　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
医療情報科学演習II	古館　裕大	1	1	前期
授業概要	リハビリテーション領域で急激に進みつつあるDX（医療DX）について，その基盤となる技術に触れる．本科目は医療DX教育を成す科目の1つである．			
到達目標	医療DXの基礎を成す技術に触れることができる．特に，①センサを用いてヒトや環境を測定するプログラムの書き方と，②測定データを通信・共有するICTの考え方を理解できる．			

授業計画

1	センシング演習	講義の概要を理解できる．フローチャートの基本的な考え方が理解できる．
2		フローチャートを通して"かつ"や"または"などの条件を考えることができる
3		明るさセンサや距離センサを利用したプログラミングを行い，micro:bitで生体計測をすることができる
4		角度センサや加速度センサを利用したプログラミングを行い，micro:bitで生体計測をすることができる
5		スマホとmicro:bitを連携したプログラムの開発を通して，データの通信・管理の役割を担うICTの仕組みを理解できる
6		
7		医療現場に存在するニーズや解決すべき課題に対し，ICTを用いた手法を提案できる
8	医療情報科学関連トピック②（ロボットとAI）	医療現場において身近な存在となりつつあるロボットやAIなど，より発展した技術の知見を深めることができる．
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書	特に無し	履修条件	講義・演習ではPCを使用する　8回の講義なので，3回以上欠席すると単位を取得できない
参考書	特に無し	留意事項等	日常的にPCを利用し，PCの扱いに慣れ親しんでおく事
成績評価	期末試験と課題により総合的に評価		
備考			

□　選択　☑　必修			☑　講義　□　演習　□　実習	
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
解剖学	千葉　馨	2	1	前期

授業概要	リハビリテーションの基礎知識となる人体の構造、部位名称等について覚え、理解し、後に学ぶ疾患や障害学、治療学の土台となるべく力を培う。
到達目標	・人体の各部位名称を覚える、書ける、人体の構成を理解する（解剖用語のアウトプットも含む）骨格筋について髄節、神経支配、作用、起始停止について覚える。

授業計画

1	オリエンテーション	解剖学の用語と解剖学的体位と平面　人体の各部名称など（頭頸部、上肢下肢、体幹）
2	細胞	細胞
3	発生	ヒトの発生
4	人体の組織	骨の発生と骨格
5	消化器系の概要	消化器系の器官と働きの概要について学ぶ
6	泌尿器系の概要	泌尿器系の器官と働きの概要について学ぶ
7	循環器系の概要	循環器系の器官と働きの概要について学ぶ
8	呼吸器系の概要	循環器系の器官と働きの概要について学ぶ
9	神経系１	中枢神経と末梢神経、脊髄について学ぶ
10	神経系２	脊柱と椎骨、脊髄神経について学ぶ
11	骨格系１	肩甲帯の筋
12	骨格系２	中間テスト／腕神経叢
13	骨格筋１	肘関節の筋①　髄節、支配神経、作用、起始停止
14	骨格筋２	肘関節の筋②　髄節、支配神経、作用、起始停止
15	骨格筋３	手関節の筋①髄節、支配神経、作用、起始停止
16	骨格筋４	手関節の筋②髄節、支配神経、作用、起始停止
17	骨格筋５	手指の筋の構造と手指の筋①髄節、支配神経、作用、起始停止
18	骨格筋６	手指の筋（手内筋）②髄節、支配神経、作用、起始停止
19	骨格筋７	下肢の構造
20	骨格筋８	股関節の筋①髄節、支配神経、作用、起始停止
21	骨格筋９	股関節の筋②髄節、支配神経、作用、起始停止
22	骨格筋１０	股関節の筋③髄節、支配神経、作用、起始停止
23	骨格筋１１	膝関節の筋①髄節、支配神経、作用、起始停止
24	骨格筋１２	膝関節の筋②髄節、支配神経、作用、起始停止
25	骨格筋１３	足関節の構造
26	骨格筋１４	足関節の筋①髄節、支配神経、作用、起始停止
27	骨格筋１５	足関節の筋②髄節、支配神経、作用、起始停止
28	体幹の構造１	背筋　髄節、支配神経、作用、起始停止
29	体幹の構造２	胸部の筋（呼吸筋）髄節、支配神経、作用、起始停止
30	体幹の構造３	腹部の筋　髄節、支配神経、作用、起始停止

教科書	グレイ解剖学第５版	履修条件	全講義の1/5を欠席すると単位を取得できない
参考書	標準理学療法作業療法解剖学第６版	留意事項等	・適宜小テストを不定期に行うので授業で行った部分の理解・知識の補完を常に行うこと
成績評価	中間および期末試験、出席状態など授業態度、提出物について成績の対象とする。 60点以上「C評定」で単位修得となる		
備考	授業終了後の理解度アンケート、不定期な小テスト等を実施する。積極的な質問を歓迎する。		

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☑　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
解剖学演習	千葉　馨	1	1	後期

授業概要	神経系，消化器系，呼吸器系，泌尿生殖器系，内分泌系について系統的に学習する。また学習の理解度を深めるためにグループでの討議など振り返りの時間を取り入れる。小テストをこまめに実施して理解度を確認する。 本授業では担当教員の臨床における作業療法士としての実務経験ならびにこれまでの肉眼解剖教育の経験を活かして講義を展開する。
到達目標	解剖学講義を踏まえ、脳や脈管、内臓系について説明できる。

授業計画

1	大脳（終脳）	大脳の形態と機能局在について説明できる
2	大脳の内部構造と白質	大脳の内部に存在する神経核（大脳基底核など）と白質を構成する神経線維について説明できる
3	間脳・脳幹	間脳（視床，視床下部，視床上部）ならびに脳幹（中脳－橋－延髄）の構造と機能ついて説明できる
4	小脳・脊髄	小脳，脊髄の構造と機能 について説明できる
5	伝導路	錐体路や錐体外路などの下行路と脊髄視床路などの上行路について説明できる
6	髄膜と脳脊髄液，脳室系 脳の血管	内頸動脈系と椎骨動脈系，動脈輪，脳室と脳脊髄液の循環経路について説明できる
7	脳神経の種類と特徴	脳神経とは何か，その構造と機能について説明できる
8	自律神経系	自律神経系の構造と機能について説明できる
9	消化器系	・口腔から肛門に至る消化管の構造と機能を説明できる。 ・消化に必要な酵素を産生・貯蔵する付属器官についてその構造と機能を説明できる ・消化管に分布する動脈・静脈について説明できる
10		
11	呼吸器系	鼻腔から肺に至る呼吸器の構造と機能を説明できる
12		
13	泌尿・生殖器系	腎臓や膀胱，尿道などの泌尿器と精巣や卵巣，子宮などの生殖器について男女の違いも含めてその構造と機能を説明できる
14		
15	内分泌系	内分泌系の構造と機能について説明できる

教科書	・塩田浩平，他監：グレイ解剖学 原著第4版	履修条件	15回の講義の内，4回以上欠席の場合は定期試験を受験できない

参考書	・加藤征，他編：新解剖学 フルカラー新装版 第7版（Qシリーズ） ・松村譲兒：イラスト解剖学 第 9 版	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・小テスト，期末試験の内容をもって総合的に評価する ・総計の60%以上を合格とする		
備考	・授業資料を配布するので忘れずに授業に持ってくること ・分からない点を質問するなど教員をうまく活用し，知識の定着に努めること		

□　選択　☑　必修			☑　講義　□　演習　□　実習	
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
生理学	石田　裕二	2	1	前期

授業概要	生体機能の基礎的知識（生命活動の本質），呼吸，循環，消化，排泄，それらを調節する自律神経や内分泌系の働きを学習する　特に各種の障害に深く関係する神経生理学を重視した内容を展開する
到達目標	生体機能についてそのメカニズムの理解を深め，専門分野の学習が円滑に行うための基礎医学的知識を習得し，医学的視点からフィジカルアセスメントにつながる基礎的な知識を深めることができる

授業計画

1	概説	生命現象とは何か，人体の構造とその概略についてイメージできるようになる
2	細胞レベルの構造と機能	生命の原点である細胞の構造と機能についてその概略が理解できる
3	細胞膜の機能と膜電位・活動電位の発生機序①	分極，脱分極，再分極など細胞膜と生命現象の関係の概略を理解できる
4	細胞膜の機能と膜電位・活動電位の発生機序②	ニューロン（neuron）、シナプス（synapse）など、神経の基本構造を理解できる
5	神経系①　ニューロンとシナプスの構造と機能	中枢神経系（脳と脊髄）の構造と機能の概略を理解できる
6	神経系②　中枢神経と末梢神経の構造と機能	中枢神経系と末梢神経系の形態的・機能的な分類ができるようになる
7	筋生理	筋収縮に関するエネルギー供給・代謝について説明できる 滑走説を説明できる
8	脊髄の構造と下行路	錐体路系の下行路と錐体外路について理解できる
9	脊髄の構造と上行路	脊髄内の上行路と関連している感覚モダリティについて理解できる
10	伸張反射の回路①	脊髄の構造と機能の概略を説明できる 筋紡錘、腱器官の構造と機能を説明できる
11	伸張反射の回路②	脊髄反射の回路が理解できる 錘内筋の活動、機能について理解できる
12	自律神経系の構造と機能	自律神経（交感神経と副交感神経）の機能・神経制御によるホメオスタシスの維持機能について概略が理解できる
13	脳神経概論	脳神経の構造と機能の概略を理解できる　また、自律神経系との関連性について理解を深める
14	神経系のまとめ	神経系について（動物機能生理学系）総じてその概略を理解できる
15	血液・体液	循環器ホメオスタシスに関与する血液・体液について、その機能の概略を理解できる
16	心電図学　①	心臓の構造と機能の概略を学習し、心電図が表現する波形について理解を深める
17	心電図学　②	正常心電図の波形の名称、その意味について理解を深める
18	心電図学　③	呼吸器と循環器の機能の関連性と心電図の変化の概略が理解できる

19	呼吸器概論	呼吸器・循環器の構造と機能が理解できる
20	呼吸器と酸塩基平衡	呼吸・代謝機能の全貌から酸塩基平衡について理解できる
21	内分泌学　①	ホルモンやサイトカインについて論じ、その作用の概略について理解を深める
22	内分泌学　②	内分泌に関わる臓器、生産過程などを理解できる
23	消化器学　①	消化器の構造と機能について概略が理解できる
24	消化器学　②	消化酵素（化学的消化）の作用について理解できる
25	泌尿器学　①	腎臓と膀胱の機能と構造について理解できる
26	泌尿器学　②	膀胱の神経支配、排尿反射と神経因性膀胱の概略を理解できる
27	遺伝学	遺伝のメカニズムを理解し、その特徴について理解を深める
28	免疫機構　①	免疫とは何かを理解し、作用する各因子（血球や免疫物質）について知識を深める
29	免疫機構　②	免疫反応と自己免疫疾患の関係、具体的な症状とその治療などの概略が理解できる
30	植物機能生理学の要点	ホメオスターシスを維持する植物機能について概要を理解できる

教科書	最新　リハビリテーション基礎講座　生理学 （医歯薬出版：電子教科書棚内）	履修条件	電子教科書にて授業を進行する　PCを用意すること30回の講義なので，7回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	生体の仕組み標準テキスト第3版　新しい解剖生理 （医学映像教育センター）	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・適宜中間テスト（30点分）を実施する ・中間テスト（30点満点）の結果と定期テスト（70点満点）の結果を総合して成績に反映させる ・欠席数が規定範囲を超えた場合（全出席数の1/5を終えた場合）定期試験を受験できないので単位未修得となり留年することになるので注意すること		
備考			

□　選択　☑　必修		□　講義　☑　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
生理学演習	石田　裕二	1	1	後期

授業概要	生理学演習では生理学で学んだ知識を具体的に演習を通じて体験し，臨床に必要不可欠な知識の理解を深める
到達目標	臨床現場に必要な基礎的な知識と技術（バイタルサインの計測など）を習得し，専門領域につながる技能を習得する

授業計画

1	循環器系の計測	循環動態と血圧の関係を理解し医学的根拠を持って血圧を計測することができる
2	心電図　①	心電図の基礎的なメカニズムを理解することができる
3	心電図　②	標準12誘導と胸部単極誘導について臨床的意味を説明できるようになる
4	心電図　③	異常心電図と正常心電図を比較し，病的問題点を評価できるようになる
5	心電図　④	標準12誘導を具体的に計測し，その臨床的技術を習得する
6	呼吸器系　①	呼吸器疾患の臨床像とスパイログラムの関係を理解できる
7	呼吸器系　②	スパイログラムを用いた肺機能の計測を体験し理解を深める
8	呼吸循環　①	有酸素運動と無酸素運動，ATポイントなどの意味を理解する
9	呼吸循環　②	運動負荷試験を体験し臨床的意義や基礎的知識を習得する
10	筋電図　①	筋電図の波形についてその意味を理解できる
11	筋電図　②	筋電図データの解析についてその意味と手法を理解できる
12	筋電図　③	表面筋電計を用いて具体的に計測し波形と骨格筋・神経制御の実態を把握できる
13	筋電図　④	誘発筋電計を用いてF波やＨ波の計測し，脊髄の興奮性について理解を深める
14	筋電図　⑤	誘発筋電計を用いて末梢神経伝導速度を計測し，臨床的意義を理解する
15	感覚検査	表在・深部感覚の具体的な計測から，神経障害の症状についての理解を深める

教科書	最新　リハビリテーション基礎講座　生理学 （医歯薬出版：電子教科書棚内）	履修条件	電子教科書にて授業を進行する　PCを用意すること15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	生体の仕組み標準テキスト第3版新しい解剖生理 （医学映像教育センター）	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

□　選択　☑　必修		☑　講義　□　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
人間発達学	相馬　栄大	1	1	前期
授業概要	人が成長する過程について中枢神経系の発達を中心に社会的に活躍し老年期に至るまでを理解し、その各ステージでの理学療法士・作業療法士の関わる視点を理解できる			
到達目標	新生児期からの発達過程に関わる神経系の理解と身体活動について理解できる			

授業計画

1	正常発達について	発達の原則、ヒトの正常発達について
2	発達の概念	胎芽と胎児の発達過程に始まり、人間発達期、発達の主な原則などが理解できる
3	姿勢反射、反応とは	発達過程における反射・反応について学び、正常な発達の獲得の背景である中枢神経の成熟、筋と骨格の成長について理解できる
4	脊髄レベルの反射	正常児の脊髄レベルの反射について出現時期、消失時期、どのような反射かを理解できる
5	脳幹レベルの反射	正常児の脳幹レベルの反射について出現時期、消失時期、どのような反射かを理解できる
6	中脳レベルの反応	正常児の中脳レベルの反応について出現時期、消失時期、どのような反射かを理解できる
7	中間試験 大脳レベルの反応①	講義の１～７回目の内容について中間テスト（30分程度）を行う
8	大脳レベルの反応②	正常時の大脳レベルの反応について出現時期、消失時期、どのような反射かを理解できる
9	運動の発達①	１～３歳までに見られる姿勢反射および反応獲得について理解できる
10	運動の発達②	６歳までに見られる姿勢反射および反応獲得について理解できる
11	上肢機能の発達	ヒトの上肢機能を学び、成長過程次獲得できる運動等について理解できる
12	感覚・知覚・認知・社会性の発達	環境の刺激情報処理である感覚、知覚、認知について学び、感覚システムの発達について理解できる
13	ADLの発達（遊び・食事・排泄・更衣）	中枢神経系の発達と日常生活活動動作（ADL）の獲得の関係性を理解できる
14	発達検査	遠城寺式乳幼児分析的発達検査、日本版デンバー式発達スクリーニング検査、日本版ミラー幼児発達
15	学童・青年・成人・老年期の発達	エリクソン「８つの発達段階」について理解できる

教科書	上杉雅之監修 イラストでわかる人間発達学 医師薬出版株式会社	履修条件	前講義の1/５以上を欠席すると単位を取得できない
参考書	講義資料中に示す	留意事項等	適宜小テストを不定期に行うので授業で行った部分の理解・知識の補完を常に行うこと
成績評価	15回の講義の中で、適宜小テストを実施する。 小テストの結果と中間および期末試験、提出物を総合して成績に反映させる。		
備考	授業終了後の理解度アンケート、不定期な小テスト等を実施する。積極的な質問を歓迎する。		

函館市医師会看護・リハビリテーション学院　作業療法学科

☐ 選択 ☑ 必修			☑ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習	
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
運動学	羽澤　晃士	2	1	前期

授業概要	運動学は身体運動の仕組みに関する学問であり，その理論的基盤をなす専門基礎科目である。本科目では，正常な身体運動を理解するうえで必要な運動器の基本構造と機能を学ぶ。さらに，身体各部位の関節構造と機能を関節運動と関連づけて学習し，機能解剖学的視点から四肢，脊柱・体幹，頭部における各関節運動の仕組みを深める。
到達目標	リハビリテーションの対象となる運動障害のメカニズムを理解するために，身体運動を遂行するうえで必要な運動器（筋骨格系・神経系）の基本構造と機能を学び，四肢，脊柱・体幹，頭部における各関節運動の仕組みについて説明できるようになる。

授業計画

1	オリエンテーション	本授業の概要ならびに運動学の学問領域について理解できる
2	骨の構造と機能	骨格を形成する骨の名称，骨の基本構造と機能について理解できる
3	関節の構造と機能①	関節の基本構造，関節の分類について理解できる
4	関節の構造と機能②	関節運動の表し方，関節包内における関節運動について理解できる
5	関節の構造と機能③	主要な関節とその運動方向について理解できる
6	骨格筋の構造と機能①	骨格筋の構造について理解できる
7	骨格筋の構造と機能②	筋の収縮機序，活動電位について理解できる
8	骨格筋の構造と機能③	筋線維の種類，運動単位，神経支配比について理解できる
9	骨格筋の構造と機能④	筋の収縮様式，筋のはたらき，筋肥大と筋萎縮について理解できる
10	骨格筋の構造と機能⑤	筋の静止張力と活動張力について理解できる
11	生体力学①	関節モーメント，外力と内力について理解できる
12	生体力学②	身体とてこ，筋力と重力について理解できる
13	体位と重心①	体位と構え，基本肢位，重心が規定される要素について理解できる
14	体位と重心②	基本的立位姿勢の理想的アライメントについて理解できる
15	肩複合体の運動学①	肩複合体の構造について理解できる

16	肩複合体の運動学②	肩複合体の関節運動について理解できる
17	肩複合体の運動学③	肩複合体の関節運動における靭帯の作用について理解できる
18	肩複合体の運動学④	肩複合体の関節運動における筋の作用について理解できる
19	肘関節・前腕の運動学①	肘関節・前腕の構造，関節運動について理解できる
20	肘関節・前腕の運動学②	肘関節・前腕の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる
21	手関節の運動学①	手関節の構造，関節運動について理解できる
22	手関節の運動学②	手関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる
23	手指の運動学①	手指関節の構造，関節運動について理解できる
24	手指の運動学②	手指関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる
25	股関節の運動学①	股関節の構造，関節運動について理解できる
26	股関節の運動学②	股関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる
27	膝関節の運動学①	膝関節の構造，関節運動について理解できる
28	膝関節の運動学②	膝関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる
29	足関節の運動学①	足関節の構造，関節運動について理解できる
30	足関節の運動学②	足関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる

教科書	・基礎運動学	履修条件	30回の講義なので，7回以上欠席すると期末試験を受験できない
参考書	・15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・30回の講義のなかで，適宜小テストを実施する ・小テスト，期末試験の結果を総合して成績に反映させる		
備考			

□　選択　☑　必修			□　講義　☑　演習　□　実習	
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
運動学演習	羽澤　晃士	1	1	後期

授業概要	前期に引き続き，正常な身体運動を理解するうえで必要な運動器の基本構造と機能を学び，身体運動・動作の仕組みについて理解を深める。また，正常歩行に関する基本的な知識を身につけるとともに，各関節運動時に作用する筋が即座にイメージできるよう演習課題を実施する。
到達目標	脊柱・体幹，顔面・頭部における各関節運動の仕組みについて説明できるようになる。また，歩行の動作分析に必要な基本的な知識について理解するとともに，各関節運動時に作用する筋を挙げることができるようになる。

授業計画

1	脊柱・体幹の運動学①	脊柱全体の基本構造と機能について理解できる
2	脊柱・体幹の運動学②	頸椎の構造，頸部の運動と関与する筋の作用について理解できる
3	脊柱・体幹の運動学③	胸郭の構造，胸部の運動と関与する筋の作用について理解できる
4	脊柱・体幹の運動学④	腰椎の構造，腰部の運動と関与する筋の作用について理解できる
5	顔面と頭部の運動学	顎関節の構造と関節運動，咀嚼筋と顔面筋（表情筋）の作用について理解できる
6	正常歩行①	正常歩行の基本概念（歩行周期）について理解できる
7	正常歩行②	正常歩行時の重心移動や各関節運動について理解できる
8	正常歩行③	正常歩行時の筋活動について理解できる
9	正常歩行④	正常歩行時の床反力について理解できる
10	上肢の筋作用①	上肢の関節運動時における筋作用を挙げることができる
11	上肢の筋作用②	
12	上肢の筋作用③	
13	下肢の筋作用①	下肢の関節運動時における筋作用を挙げることができる
14	下肢の筋作用②	
15	下肢の筋作用③	

教科書	・基礎運動学	履修条件	15回の講義なので，４回以上欠席すると期末試験を受験できない
参考書	・15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで，適宜小テスト，課題作成を実施する ・小テスト，期末試験，提出物の結果を総合して成績に反映させる		
備考			

□　選択　☑　必修		□　講義　☑　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
臨床運動学演習	千葉　馨	1	2	前期
授業概要	既習の運動学で学習した内容を臨床的視点で応用し分析する力を養えるよう講義，演習を行う． 演習はテーマごとに小グループに分かれ，分析結果をレポートにまとめること．			
到達目標	健常者の基本動作パターンを理解し，動作分析を行い他者に説明することができる．			

授業計画

1	オリエンテーション	本科目の概要や学習目標について理解し，基本動作の動作分析を経験する．
2	動作分析概論	動作分析の目的とその捉え方について学び，理解を深める．
3	グループワーク①	寝返り動作・起き上がり動作・座位姿勢・立ち上がり動作・歩行動作について， 小グループに分かれ各動作分析を演習し，正常な運動パターンの理解と， 健常者における運動パターンの比較を行い レポート・パワーポイントにまとめることができる．
4	グループワーク②	
5	グループワーク③	
6	グループワーク④	
7	グループワーク⑤	
8	グループワーク⑥	
9	ディスカッション①	小グループ毎に，これまでまとめた資料をもとにプレゼンテーションを行い， 他のグループの質疑を受け自身の理解を深める．
10	ディスカッション②	
11	ディスカッション③	
12	ディスカッション④	
13	疾患を有する症例の動作分析①	実際の症例の動作パターンを観察し，正常パターンとの違いについて言及するとともに，改善点について考察することができる．
14	疾患を有する症例の動作分析②	
15	まとめ	13・14回で実施した内容をもとにレポートを作成し，理解を深める

教科書	基礎運動学　第6版 中村隆一ら　医歯薬出版	履修条件	15回の講義なので，4回以上 欠席すると定期試験を受験できない
参考書	未定	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・出席日数，グループワーク取り組み状況，授業態度，レポートをもって成績を判定する．		
備考	グループワークを実施するため，グループ全員が役割をもって主体的に講義に参加すること．		

□　選択　☑　必修		□　講義　☑　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
機能解剖学演習	千葉　馨	1	2	後期

授業概要	解剖学・運動学の知識を統合し，身体運動を検査・治療方法等と関連付けられるように講義演習を行う。 本授業では担当教員の臨床における作業療法士としての実務経験ならびにこれまでの肉眼解剖教育の経験を活かして講義を展開する。
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	外皮系の構造と機能	外皮の構造と機能を理解するとともに，分布する感覚受容器について説明できる。
2	骨格系の構造	各骨の名称や関節について説明できる。
3	肩甲帯・肩関節の構造と運動	肩関節を構成する骨格・靭帯を見直し，肩甲帯ならびに肩関節の構造・運動・特徴を説明できる。
4	肘関節・手関節・手指の構造と運動	肘関節・手関節・手指を構成する骨格・靭帯を見直し，これらの構造・運動・特徴を説明できる。
5	骨盤・股関節の構造と運動	骨盤・股関節を構成する骨格・靭帯を見直し，これらの構造・運動・特徴を説明できる。
6	膝関節・足関節の構造と運動	膝関節・足関節を構成する骨格・靭帯を見直し，これらの構造・運動・特徴を説明できる。
7	足部の構造と運動	足部を構成する骨格・靭帯を見直し，これらの構造・運動・特徴を説明できる。
8	骨格構造総復習	骨格構造について各骨の名称や形状，特徴，連結について骨格模型を用いて説明できる
9	肩甲帯・肩関節の運動に関与する筋と運動	肩甲帯・肩関節に作用する筋を見直し，これらの運動を説明できる。
10	肘関節・手関節・手指の運動に関与する筋と運動	肘関節・手関節・手指に作用する筋を見直し，これらの運動を説明できる。
11	骨盤・股関節の運動に関与する筋と運動	骨盤・股関節に作用する筋を見直し，これらの運動を説明できる。
12	膝関節・足関節の運動に関与する筋と運動	膝関節・足関節に作用する筋を見直し，これらの運動を説明できる。
13	足部の運動に関与する筋と運動	足部に作用する筋を見直し，これらの運動を説明できる。
14	末梢神経系の構造と支配領域	運動の情報を伝える末梢神経系の構造，特に神経叢について理解し，その分布について説明できる
15	筋総復習	各筋の起始・停止・作用を説明できる

教科書	授業は配布資料に基づいて実施する	履修条件	15回の講義なので，４回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	・塩田浩平，他監：グレイ解剖学 原著第4版 ・中村隆一，他：基礎運動学 第6版補訂	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・中間テスト，期末試験の内容をもって総合的に評価する ・総計の60%以上を合格とする		
備考	・授業資料を配布するので忘れずに授業に持ってくること ・分からない点を質問するなど教員をうまく活用し，知識の定着に努めること		

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
病理学	楢木　広一	1	1	後期

授業概要	病理学を構成する項目について種々理解できるように講義を行う
到達目標	病理学を構成する項目について種々理解できる

授業計画

1	総論　①	病理学の概要，病因論について理解できる
2	総論　②	退行性病変・進行性病変について理解できる
3	総論　③	代謝障害，循環障害について理解できる
4	総論　④	免疫について理解できる
5	総論　⑤	炎症，感染症について理解できる
6	総論　⑥	腫瘍，老化について理解できる
7	総論　⑦	先天異常・奇形について理解できる
8	各論	造血器について理解できる

教科書	病理学　標準理学療法学・作業療法学	履修条件	8回の講義なので，2回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

□　選択　☑　必修		☑　講義　□　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
内部障害学	小西 宏明　竹澤 周子 髙橋 清彦　北川 はるみ	1	2	前期
授業概要	基礎的内容の内科学領域の内容を論じる　内科領域の疾患の概念，診断学の基礎，生活習慣病の予防や栄養指導などにも触れる			
到達目標	正確な病態の理解とフィジカルアセスメントに必要な知識を習得し理解できるようになる			

授業計画

1	消化器系疾患　①	消化器の構造と機能の概要について理解できる
2	消化器系疾患　②	各消化器疾患の概要および診断、治療について理解できる
3	代謝性疾患	代表的な生活習慣病である糖尿病の診断，治療の概略を理解できる
4	内分泌系疾患	脳下垂体，上皮小体，副腎などの内分泌器官の疾患・障害について概略を理解できる
5	循環系の疾患　①	心臓、血管の構造と機能の概要について理解できる
6	循環系の疾患　②	高血圧，動脈硬化など血管病変疾患の概要および診断、治療について理解できる
7	循環系の疾患　③	虚血性心疾患の概要および診断、治療について理解できる
8	循環系の疾患　④	不整脈の概要および診断、治療について理解できる
9	呼吸器系の疾患　①	呼吸器の構造と機能の概要について理解できる
10	呼吸器系の疾患　②	閉塞性換気障害の概要および診断、治療について理解できる
11	呼吸器系の疾患　③	拘束性換気障害の概要および診断、治療について理解できる
12	呼吸器系の疾患　④	各種の肺疾患を分類し，その症状と循環器系への影響について説明できる
13	栄養　①	在宅医療における栄養管理の意義や方法を理解できる
14	栄養　②	具体的に行われている在宅医療における栄養指導について理解できる
15	栄養　③	NST（Nutrition Support Team）の機能をふまえ，多職種連携にけるOT・PTの役割と活動内容について理解できる

教科書	なるほどなっとく！内科学	履修条件	15回の講義なので，４回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
神経障害学Ⅰ	佐藤　速太	1	2	前期
授業概要	神経障害はOT・PTの治療対象の中核をなすものであり，臨床神経学の知識は直接治療技術に反映する　本科目は神経解剖から症候学まで必要不可欠かつ基本的な内容を網羅する			
到達目標	神経系の構造と機能を熟知し，様々な症候を医学的に理解できるようになる			

授業計画

1	神経機能解剖　①	中枢神経系（脳・脊髄）の解剖，伝導路，が理解できる
2	神経機能解剖　②	脳神経を再確認して，その機能について理解を深め，各疾患により発生する障害や症状について神経学的に説明できる
3	神経機能解剖　③	
4	リハビリテーションに深く関係する神経症状	上位運動ニューロン障害や下位運動ニューロン障害の症状の相違点を理解したうえで神経学的サインを理解できるようになる
5	神経症候学　①	「反射学」をベースにしたクライアントの神経学的な反応を理解し，障害の本質が推測できるようになる
6	神経症候学　②	大脳基底核や小脳の障害によって生じる錐体外路障害について理解し、疾患や臨床所見を想像できるようになる。
7	神経症候学　③	中枢神経の損傷によって生じる脳血管疾患などの中枢神経疾患にまつわる障害像を推測できるようになる
8	振り返り	前半部分で理解した中枢神経系をまとめ、知識の確認を行う
9	神経変性疾患の症候学　①	認知症など大脳皮質の変性によって生じる疾患の症状から、神経学的な意味を理解できる。
10	神経変性疾患の症候学　②	前回に引き続き大脳基底核の変性によって生じる疾患の症状から、神経学的な意味を理解できる。
11	神経筋疾患　各論　①	リハビリテーションと深くかかわる神経筋疾患について論じ、神経学的な視野を広げ，理学療法や作業療法の具体的な介入について理解することができるようになる
12	神経筋疾患　各論　②	
13	神経筋疾患　各論　③	
14	神経筋疾患　各論　④	
15	神経筋疾患　各論　⑤	

教科書	病気がみえる　vol.7　脳・神経 メディックメディア社	履修条件	15回の講義なので，４回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	神経診察クローズアップ正しい病巣診断のコツ メディカルビュー社	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・中間・期末テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

□　選択　☑　必修		☑　講義　□　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
神経障害学Ⅱ	平塚　健太	1	2	前期

授業概要	神経障害学Ⅰの内容を踏まえ，本科目は具体的な神経疾患とその症状・治療について論じる
到達目標	リハビリテーションに必要な神経疾患の理解を深め，専門領域で治療学に応用できる知識を習得し治療に応用できるようになる

授業計画

1	脳血管疾患　①	多種の脳血管疾患の疫学と診断について理解できる
2	脳血管疾患　②	脳血管疾患に起因する症状や治療法について理解できる
3	脳卒中　①	脳卒中の危険因子・脳卒中の分類及び特徴について理解できる
4	脳卒中　②	脳卒中の分類別における症状や治療について理解できる
5	脳卒中　③	脳卒中の急性期における治療や特徴について理解できる
6	脳卒中　④	脳卒中の急性期におけるリスク管理について理解できる
7	脳卒中　⑤	脳卒中の回復期及び維持期における治療や特徴について理解できる
8	認知症/高次脳機能障害①	認知症・失語症・失認・失行等の高次脳機能障害の特徴について理解できる
9	認知症/高次脳機能障害②	認知症・高次脳機能障害の治療・姿勢定位障害について理解できる
10	パーキンソン病	高齢者によくみられるパーキンソン病の症状や治療法を説明できる
11	神経筋疾患　①	筋ジストロフィーやALSの特徴について理解できる
12	神経筋疾患　②	各種の変性疾患(SCD・MS・PSP等)について理解できる
13	脊髄損傷	脊髄損傷の症状，高位診断，神経学的評価法などを説明できる
14	医用画像　①	実際の症例や画像情報などから症状・障害を推測し医学的に考察できる
15	医用画像　②	

教科書	病気がみえる vol.7 脳・神経	履修条件	15回の講義なので，4 回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	適宜提示	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考	筋ジストロフィーやALSの特徴について理解できる		

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
精神医学	石田　裕二	1	1	後期
授業概要	精神に関する基礎知識から病理までの知識を身に着け，リハビリテーションを前提に理解を進めることができるよう講義を行う			
到達目標	精神について，精神医学についての理解を深め，リハビリテーションと関連した思考ができるようになる			

授業計画

1	総論　①	精神医学とは何か，その概略を理解できる
2	総論　②	精神疾患の分類，症状論，検査，神経症性障害とその周辺疾患について概略を理解できる
3	総論　③	様々な治療（薬物療法，精神療法，リハビリテーション，心理学的アプローチ，認知行動療法など）について，その概略を理解できる
4	総論　④	認知症，器質性精神病，薬剤性精神障害について理解できる
5	各論　①　気分障害	気分障害の分類や症状について理解できる
6	各論　②　統合失調症	統合失調症の分類や症状について理解できる
7	各論　③　神経症性障害	様々な神経症領域の障害について，その症状や環境要因の関係などを理解できる
8	各論　④　人格障害	様々な人格障害について，その症状や環境要因の関係などを理解できる
9	各論　⑤　依存症	アルコール依存や薬物依存などの病態とそれらの治療について理解できる
10	各論　⑥ 自閉症スペクトラム	自閉症スペクトラム症（ASD）や広汎性発達障害について理解できる
11	各論　⑦　てんかん	てんかんの分類や症状について理解できる
12	各論　⑧　認知症	認知症の原因疾患，分類，症状の特徴などが理解できる
13	治療学　①	各種の精神疾患に対する治療的介入法（薬物療法，精神療法，心理学的アプローチ，作業療法など）について，期待できる効果について理解できる
14	治療学　②	
15	リエゾン精神医学	リエゾン精神医学における作業療法士・理学療法士の役割について理解できる

教科書	精神医学　第4版増補版（医学書院）	履修条件	15回の講義なので，４回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	精神医学テキスト　改訂第5版（南江堂）	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
老年期障害学	石川　竜乃介　　伊丸岡　知明	1	1	後期

授業概要	老年期の特徴を理解し，我が国における老年医学，高齢者医療について理解できるよう講義を行う
到達目標	老年期の特徴を理解し，我が国における老年医学，高齢者医療について理解できる

授業計画

1	老年医学とリハビリテーションについて	老年期医学とリハビリテーションの関係について理解できる
2	加齢に伴う変化　①	老年期の感覚機能の変化について理解できる
3	加齢に伴う変化　②	老年期の生理機能形態学的変化について理解できる
4	加齢に伴う変化　③	老年期の運動・認知・精神心理面の変化について理解できる
5	高齢者の機能評価①	高齢者特有の機能評価について理解できる
6	高齢者の機能評価②	高齢者特有の機能評価について理解し、実践できる
7	脱水と代謝	加齢に起因する代謝障害について理解できる
8	栄養と服薬アドヒアランス	高齢者に必要な栄養や評価、服薬アドヒアランスについて理解できる
9	老年期症候群について①	代表的な老年期症候群について理解できる
10	老年期症候群について②	代表的な老年期症候群について理解できる
11	循環器疾患について	代表的な老年期症候群について理解できる
12	呼吸器疾患について	代表的な循環疾患について理解できる
13	高齢者のリハビリテーション①	高齢者のリハビリテーションについて理解できる
14	高齢者のリハビリテーション②	高齢者のリハビリテーションに必要なリスク管理について理解できる
15	高齢者の終末期医療について	緩和ケア・ホスピスなど終末期医療と高齢者との関係を理解できる

教科書	老年学　標準理学療法学・作業療法学 (医学書院)	履修条件	15回の講義なので 4 回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
運動器障害学	平塚健太　石川竜乃介	1	2	前期

授業概要	運動器に纏わる疾患について発生と治療法について知り，理解できるよう講義を行う
到達目標	多様な運動器疾患の症状と治療法について知り，具体的な作業療法・理学療法の治療技術をイメージできる

授業計画

1	総論①　骨の発生と成長 軟骨・関節の基本構造	骨の発生と成長と軟骨・関節の基本構造について理解できる
2	総論② 神経損傷・末梢神経障害	末梢神経障害の症状と治療について理解できる
3	各論①　肩・上肢	肩に見られる様々な疾患の症状や障害について学び，整形外科的な治療について理解できる
4	各論②　肩・上肢	肘に見られる様々な疾患の症状や障害について学び，整形外科的な治療について理解できる
5	各論③　肩・上肢	前腕・手に見られる様々な疾患の症状や障害について学び，整形外科的な治療について理解できる
6	各論⑤股関節・膝・足部	変形性股関節症の診断（画像）と観血的治療やその他について理解できる
7	各論⑥股関節・膝・足部	変形性膝関節症の診断（画像）と観血的治療やその他について理解できる
8	各論⑥股関節・膝・足部	靭帯損傷の診断（画像）と観血的治療やその他について理解できる
9	各論⑦股関節・膝・足部	下肢の骨折（大腿骨頸部骨折等）の診断（画像）と観血的治療やその他について理解できる
10	各論⑧股関節・膝・足部	切断の診断（画像）と観血的治療やその他について理解できる
11	各論⑨　脊柱疾患	圧迫骨折・破裂骨折・狭窄症の診断（画像）と観血的治療やその他について理解できる
12	各論⑩　脊柱疾患	頚髄症・末梢神経障害（上肢を中心に）の診断（画像）と観血的治療やその他について理解できる
13	各論⑪　脊柱疾患	腰痛・椎間板ヘルニアの診断（画像）と観血的治療やその他について理解できる
14	各論⑨　　褥瘡	褥瘡の病態について理解を深め，それらの診断や治療法について概略を理解できる
15	各論⑩　　熱傷	熱傷の深度や面積の判定，気道熱傷など，熱傷の病態について理解を深め，それらの治療法について概略を理解できる

教科書	病気がみえるvol.11　運動器・整形外科	履修条件	15回の講義なので，４回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
薬理学	今島　昌三	1	1	後期

授業概要	リハビリテーション分野において，必要なる薬理学の概念と知識を習得する　薬物の体内動態，薬物に影響を及ぼしうる要因，さらに薬物の副作用についての知識を習得する　授業内容に準じて知識を習得し，リハビリテーション医療に生かせる能力を身につける
到達目標	リハビリテーション分野において，必要なる薬理学の概念について理解できる

授業計画

1	オリエンテーション （薬理学の基礎知識）	人体にとって「異物」であるクスリとは何か，臨床薬理学の概念を説明できる
2	抗感染症薬/ 消炎鎮痛薬	抗ウィルス剤や抗菌剤,ワクチンの効能についての理解 副腎皮質ステロイド剤　NSAIDs　などの作用・効果の概略を説明できる
3	自律神経系作用薬/抗アレルギー薬	交感神経や副交感神経に作用する薬，α遮断薬やβ遮断薬の作用について アレルギーの分類やアナフィラキシーなどの理解と対応する薬剤の効果
4	呼吸器系の薬/循環器系の薬　①	COPDや間質性肺炎などに投与される薬剤について説明できる 降圧剤および昇圧剤の薬理作用について説明できる
5	循環器系の薬　②	抗不整脈剤や冠動脈に作用する薬などの概略を説明できる
6	神経系の薬　①/神経系の薬　②	脳浮腫の改善，脳機能の賦活，筋緊張の調整などに作用する薬剤について理解する パーキンソン病などの錐体外路障害，認知症に対する薬剤について理解する
7	精神科領域の薬　①/精神科領域の薬　②	抗精神病薬の薬理効果について説明できる 双極性障害の薬，抗てんかん剤，抗不安剤，などの向精神薬の概略を理解できる
8	抗悪性腫瘍薬/内分泌系の薬剤	悪性腫瘍の種類とそれに対応する薬剤の効果について理解できる 代謝異常やホルモン異常で惹起される症状とそれに対応する薬剤の効果

教科書	シンプル薬理学改訂第5版	履修条件	授業の５分１欠席で期末試験の受験資格を失う
参考書	検討中	留意事項等	予習復習を怠らないこと
成績評価	・テストは９回目に実施する。テストは選択問題になるのでまんべんなく復習して理解すること		
備考			

☐　選択　☑　必修			☑　講義　☐　演習　☐　実習	
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
発達障害学	高橋　和俊	1	2	前期

授業概要	子どもの発達についての考え方とリハビリテーションについて理解できるように講義を行う
到達目標	子どもの発達とリハビリテーションについて理解できる

授業計画

1	人間の発達過程	発達段階諸説について復習を行い，発達過程について理解できる
2	NICU対象児	NICU対象児ついての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる
3	脳性麻痺1	脳性麻痺児ついての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる
4	脳性麻痺2	脳性麻痺児ついての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる
5	脳性麻痺3	脳性麻痺児ついての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる
6	脳性麻痺4	脳性麻痺児ついての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる
7	脳性麻痺5	脳性麻痺児ついての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる
8	脳性麻痺6	脳性麻痺児ついての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる
9	進行性筋ジストロフィ/骨系統系疾患	筋ジストロフィ児ついての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる
10	染色体起因性障害	染色体起因性障害ついての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる
11	二分脊椎	二分脊椎児ついての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる
12	知的障害	知的障害児ついての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる
13	神経発達症１	神経発達症についての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる
14	神経発達症２	神経発達症についての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる
15	神経発達症３	神経発達症についての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる

教科書	適宜	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	適宜	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
臨床心理学	諏訪　麻依子	1	1	後期
授業概要	クライエントへの心理的な評価が行える知識と技術を理解し，臨床的な知識を身につけることができるよう講義を行う			
到達目標	心理アセスメントの方法，具体的な心理療法に関する基礎的な知識を身につける			

授業計画

1	オリエンテーション	臨床心理学の歴史から現代の考え方までを知り，理解することができる
2	障害受容	障害受容の過程について理解できる
3	人格理論	性格の類型論と特性論を理解できる
4	学習理論	学習の成立，強化因子，条件付けなどが理解できる
5	防衛機制　①	防衛機制とは何かその概略を理解する
6	防衛機制　②	様々な防衛機制について，その特徴を理解できる
7	心理療法総論	心理療法の概略，治療者とクライエントの心理的反応などを理解できる
8	心理発達	発達段階と発達過程について理解できる
9	面接技法	心理療法における基本的技法について理解できる
10	心理療法各論　①	森田療法，自律訓練法，集団精神療法について理解できる
11	心理療法各論　②	精神分析療法，行動療法，内観療法について理解できる
12	心理療法各論　③	来談者中心療法，箱庭療法，催眠療法，実存分析について理解できる
13	心理療法各論　④	認知行動療法を中心に，現代の臨床技術について理解できる
14	心理検査　①	様々な人格検査の特徴と技法について理解できる
15	心理検査　②	様々な（広義の）知能検査について理解できる

教科書	面白いほどよくわかる！臨床心理学	履修条件	15回の講義なので，４回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
救急医学	武山　佳洋	1	2	後期

授業概要	本科目では主な外傷と疾病について応急処置の方法やその必要性を説明する　これらの内容はフィジカルアセスメントに応用できるものとする
到達目標	応急処置の必要性を理解し医療施設以外の場所でも正しい所処置ができるようになる

授業計画

1	救急医学序論	救急医療とは何か、そのコンセプトを理解し、実際の救急医療がどのように展開されているのかを説明できるようになる
2	皮膚損傷	皮膚の構造や機能を理解し，皮膚の損傷に対する応急処置ができるようになる
3	運動器障害	脱臼，捻挫、骨折に対する応急処置ができるようになる
4	出　血	出血で引き起こされる失血性ショックなどの病理を理解し、止血方法について演習を通して理解することができる
5	意識障害	意識障害の原因疾患、その程度について学び、意識障害患者への対処法について理解することができる
6	心肺停止	心肺停止状態の患者に対する蘇生法について理解できる
7	心肺蘇生術の演習	心肺蘇生法の演習を通して、その効果と具体的な手技について理解できる
8	医療機関での救急医療	事故・外傷により医療機関に搬送された患者に対し、どのような処置がなされるのか理解することができる
	以下空欄	以下空欄

教科書	検討中	履修条件	8 回の講義なので，2回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・8回の講義のなかで、適宜小テストを実施することがある ・テスト結果などを総合して成績に反映させる		
備考			

□　選択　☑　必修		☑　講義　　□　演習　　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
脳神経科学	千葉　馨	1	1	後期

授業概要	脳科学の時代のとなっている昨今，リハビリテーションおよび臨床研究に生かすことができる脳科学の知識について論じる
到達目標	脳機能と働きについて身体と感覚の観点から理解できる

授業計画

1	脳神経科学オリエンテーション	作業療法士が脳機能と脳科学について学ぶ意義を理解できる
2	脳解剖と働き	脳の解剖と機能局在を中心とした働きについて理解できる
3	脳と感覚	感覚、知覚、認知について理解できる　2点識別演習を通して感覚について学ぶ
4	脳と記憶	脳の働きの主軸である記憶について理解できる　記憶の種類と記憶と脳の関係について理解できる
5	神経の可塑性①	神経の可塑性について概要を理解できる。学習理論の復習をとおして脳の可塑性を理解できる。
6	神経の可塑性②	非陳述記憶の研究を通し、神経の可塑性について理解を深めることができる。
7	神経の可塑性③	神経の可塑性についてシナプス間でどのような変化が起きているのかを理解できる
8	中間テスト 身体図式と身体イメージ	身体図式と身体イメージについて理解できる
9	運動制御と身体イメージ②	空間処理情報に基づいた手の制御システムについて理解できる
10	運動制御と身体イメージ③	身体所有間について理解できる
11	運動主体感　①	運動主体感とは何か，7またその責任領域（運動イメージの神経基盤と脳機能について）についての理解ができる
12	運動主体感　②	運動イメージを育むためのリハビリテーションについて理解できる
13	運動学習の神経メカニズム	運動学習とシークエンスについて理解できる
14	脳神経科学に基づいたリハビリテーション①	ニューロリハビリテーションについて理解できる　CI療法、川平法
15	脳神経科学に基づいたリハビリテーション②	ニューロリハビリテーションについて理解できる　BMIやロボットリハ

教科書	適宜，資料を配布する	履修条件	15回の講義なので，３回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	リハビリテーションのための　脳・神経科学入門 第2版	留意事項等	脳機能について講義内の知識を補完すること
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・中間テスト30点、期末テスト70点のトータル100点で成績を判定する		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
言語障害治療学	野村　昌邦	1	2	前期
授業概要	失語症や嚥下障害のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝを通して言語聴覚士の仕事について理解できるように講義を行う			
到達目標	失語症や嚥下障害のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝを通して言語聴覚士の仕事について理解できる			

授業計画

1	言語障害総論	言語聴覚士の役割と言語障害，かかわる脳機能について理解できる
2	言語的コミュニケーション	言語的コミュニケーションの障害について概略が理解できる
3	言語音と産出機構	言語・コミュニケーションとその生物学的基礎について理解できる
4	摂食嚥下機構	摂食嚥下機構・聴覚機構とその生物学的基礎について理解できる
5	失語症	運動性失語と感覚性失語（超皮質性失語の概念も含む）について理解できる
6	失語症の評価	失語症の評価の種類，意義，解釈について理解できる
7	失語症のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ	失語症のリハビリテーションについて理解できる
8	嚥下障害について　③	嚥下障害のリハビリテーションについて理解できる
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書	検討中	履修条件	8回の講義なので，４回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・8回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☑　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
症例検討演習Ⅰ	千葉馨・佐藤速太・西村大地・石川竜乃介	1	2	後期
授業概要	同職種，他職種との連携を主体にケース課題や事例について考えを表出できるよう演習を行うので活発な発言を期待する			
到達目標	同職種，他職種との連携を主体にケース課題や事例について分析・考察し，考えを表出できる			

授業計画

1	オリエンテーション	他職種連携を主体に考え，合理的かつ実践的なチーム医療について理解できる
2	役割分担について　①	OT・PT・STの分業や協業について事例に基づき学習し理解できる
3	役割分担について　②	OT・PT・STの分業や協業，さらに多職種との具体的な分業について理解できる
4	症例検討　①	脳卒中片麻痺の症例についてディスカッションおよび発表できる（症例は若年層）
5	症例検討　②	脳卒中片麻痺の症例についてディスカッションおよび発表できる（症例は高齢者）
6	症例検討　③	進行性神経難病の症例についてディスカッションおよび発表できる
7	症例検討　④	脊髄損傷（頚髄損傷）の症例についてディスカッションおよび発表できる
8	症例検討　⑤	脊髄損傷（腰髄損傷）の症例についてディスカッションおよび発表できる

教科書	配布資料にて対応する	履修条件	1/5以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	提出物、講義態度を総合評価して判定する		
備考			

□　選択　☑　必修		□　講義　☑　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
症例検討演習 II	千葉馨・佐藤速太・西村大地・石川竜乃介	1	2	後期
授業概要	同職種，他職種との連携を主体にケース課題や事例について考えを表出できるよう演習を行うので活発な発言を期待する			
到達目標	同職種，他職種との連携を主体にケース課題や事例について分析・考察し，考えを表出できる			

授業計画		
1	オリエンテーション	他職種連携を主体に考え，合理的かつ実践的なチーム医療について理解できる
2	症例検討　①	整形外科疾患の症例についてディスカッションおよび発表できる
3	症例検討　②	回復期リハビリの症例において，OT・PT・STの役割をディスカッションできる
4	症例検討　③	回復期リハビリの症例について，OT・PT・STの役割を発表できる
5	症例検討　④	回復期リハビリの症例について，OT・PT・STの具体的目的と介入法を発表できる
6	症例検討　⑤	認知症の症例についてOT・PT・STの役割をディスカッションできる
7	症例検討　⑥	認知症の症例についてOT・PT・STの具体的な目的と介入法を発表できる
8	症例検討　⑦	精神科領域の症例（デイケア患者も含む）についてディスカッションおよび発表ができる
8	症例検討　⑧	実習前における症例検討について

教科書	配布資料にて対応する	履修条件	1/5以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	提出物、講義態度を総合評価して判定する		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
リハビリテーション概論	佐藤 速太	1	1	前期

授業概要	リハビリテーションの理念・概要について、PT・OTとリハビリテーションに関わる専門職との連携などについて理解できるよう講義・グループワークを行う。
到達目標	リハビリテーションの理念をふまえ，具体的な障害例に対するリハビリテーションに関わる専門職との連携などについて理解できる。

授業計画

1	リハビリテーションとは	リハビリテーションの語源・定義，目的について理解する。
2	医療・福祉に関わる専門職・チーム医療	医療及び保健・社会福祉に関わる専門職とチーム医療について調べる。
3	医療・福祉に関わる専門職・チーム医療	医療及び保健・社会福祉に関わる専門職とチーム医療について調べる。
4	障害モデル	障害モデル（ICIDH、ICF）について理解できる。
5	障害モデル	障害モデル（ICIDH、ICF）について理解できる。
6	ICFフレームワーク	症例を通してICFフレームワークを実践できる。
7	ノーマライゼーション	ノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザインについて理解できる。
8	総合演習	これまで学んできたことをもとに、リハビリテーションについて説明することができる。

教科書	必要に応じて提示する	履修条件	8回の講義なので3回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	必要に応じて提示する	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・グループワークや課題への取り組み、テストを成績に反映する。		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学	佐藤　速太	1	1	後期
授業概要	リハビリテーション医学が対象とする疾患，脳卒中，頭部外傷，脊髄損傷，脳性麻痺，変性疾患，切断等についてそれらを理解し，リハビリテーションについて考えられるよう講義を行う			
到達目標	リハビリテーション医学が対象とする疾患，脳卒中，頭部外傷，脊髄損傷，脳性麻痺，変性疾患，切断等についてそれらを理解できる			

授業計画

1	オリエンテーション	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝを学ぶにあたり，基本的な用語やポイントについて理解できる
2	リハビリテーションに深くかかわる解剖生理学①	2回にわたり、筋骨格系の構造と機能（筋収縮や関節運動など）、神経系の構造と機能（上位運動ニューロンと下位運動運動ニューロン　脳神経など）を具体的な症状と照らし合わせて理解できる
3	リハビリテーションに深くかかわる解剖生理学②	
4	脳血管疾患　①	CI(脳梗塞)，CH(脳出血)，SAH(クモ膜下出血)等について学習し、リハビリテーションに関係する症状について概略を理解できる
5	脳血管疾患　②	症状と脳の機能局在の関係性を学習し、脳血管疾患が引き起こす症状について理解できる
6	脳血管疾患　③	脳血管疾患により出現する様々な臨床症状について理解できる
7	認知症	認知症の分類，症状について理解し，患者への介入法の概要を理解できる
8	脊髄損傷　①	脊損の病理、高位診断と残存機能の関係について理解できる
9	脊髄損傷　②	残存機能とADLの関係、OT/PTの介入の方法について理解できる
10	神経筋疾患　①	神経原性の変性疾患を中心に学習し、理解を深める
11	神経筋疾患　②	筋原性の疾患を中心に学習し、理解を深める
12	小児神経疾患	脳性まひ，自閉症スペクトラム，遺伝子異常などについて理解できる 小児期に発症する神経筋疾患について，具体的な症状について理解できる
13	整形外科疾患　①	骨折・脱臼・変形性関節症，靭帯損傷，肩関節障害など，臨床的に重要な運動器疾患について理解を深める
14	整形外科疾患　②	高齢期に多い運動器疾患や関節リウマチなどいわゆる膠原病など，リハビリテーションに関係の深い疾患について理解を深める
15	内部障害	心疾患、呼吸器疾患について理解ができる

教科書	PT・OT・ST・ナースを目指す人のための リハビリテーション総論　要点整理と用語解説 改訂第3版	履修条件	15回の講義なので4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	必要に応じて提示する	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
社会福祉学	八重樫　優	1	2	前期

授業概要	社会福祉についての成り立ちや歴史，現代の日本の福祉について理解できるよう講義を行う
到達目標	社会福祉の考え方の変遷，現代の日本の福祉制度の利点と問題点について理解できる また，地域医療福祉の観点から，道南・函館地域の福祉について理解を深める

授業計画

1	オリエンテーション	社会福祉とは何か，その本質的な理念について理解ができる
2	世界と日本の 社会保障と福祉の歴史	世界と日本の社会保障と福祉の歴史について理解できる
3	日本の医療・ 福祉制度の変遷	日本の医療・福祉制度の変遷について理解できる
4	社会保険・ 社会保障制度の概要	社会保険・社会保障制度の概要について理解ができる
5	高齢者福祉と障害者福祉	高齢者福祉と障害者福祉について理解できる
6	児童家庭福祉と公的扶助	児童家庭福祉と公的扶助について理解できる
7	社会福祉援助技術の方法	社会福祉援助技術の方法について理解できる
8	医療・介護・福祉の連携	医療・介護・福祉の連携について理解できる

教科書	適宜、資料を配布する	履修条件	8回の講義なので，2回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・8回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
地域包括ケアシステム論	工藤　達也	1	2	後期

授業概要	医療・福祉，地域リハビリテーションを担う様々な専門職の役割を理解できるような授業を展開し，多職種連携による包括的な地域医療福祉活動の必要性を論じる
到達目標	地域包括ケアシステムにおける医療の役割や医療福祉連携について理解できる

授業計画

1	地域包括ケアシステムⅠ	地域包括ケアシステムの概念や背景，現代における地域包括ケアシステムの重要性について理解できる
2	地域包括ケアシステムⅡ	地域包括支援センターの役割や地域包括ケア会議の概要を理解できる
3	ニーズの把握と理解	対象者(生活者)のニーズの捉え方やアプローチ方法を理解できる
4	地域包括ケアシステムにおけるセラピストの役割	地域包括における理学療法士，作業療法士の役割を理解できる
5	多職種連携・チームアプローチ	多職種連携・チームアプローチの理念と意義について理解できる
6	地域包括ケアシステムにおける社会福祉士の役割	地域包括ケアシステムにおける社会福祉士の役割について理解できる
7	地域包括ケアシステムにおける看護師の役割	地域包括ケアシステムにおける看護師の役割について理解できる
8	地域包括ケアシステムにおけるケアマネジャーの役割	地域包括ケアシステムにおけるケアマネジャーの役割について理解できる
9	多職種連携演習Ⅰ	多職種連携演習(グループワーク)を通じて，多職種連携の重要性や各職種の役割を理解できる
10	多職種連携演習Ⅱ	
11	多職種連携演習Ⅲ	
12	多職種連携演習Ⅳ	
13	多職種連携演習Ⅴ	
14	多職種連携演習Ⅵ	
15	まとめ	多職種連携における各職種の役割および包括的な地域医療福祉活動の必要性を理解できる

教科書	検討中	履修条件	15回の講義なので，４回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	地域包括ケアにおけるPT・OTの役割 個別地域ケア会議・介護予防事業から学ぶ	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	15回の講義のなかで，適宜課題を実施し，課題提出や内容を総合して成績に反映させる		
備考	グループワークも適宜行う		

□　選択　☑　必修		☑　講義　□　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
作業療法概論	西村　大地	2	1	前期

授業概要	作業療法の成り立ちや歴史について、また社会における役割について理解できるよう講義を行う
到達目標	作業療法の成り立ちや歴史について、また社会における役割について理解できる

授業計画

1	オリエンテーション	作業療法概論で学習する内容や基礎科目との関連性を理解する
2	リハビリテーションとは	リハビリテーションとは何かについて理解する
3 4	「作業」とは	作業療法における作業とは何かについて理解する
5 6	作業療法とは	作業療法とは何か・作業療法の定義について理解する
7 8	作業療法の対象と領域	作業療法の対象・領域、作業療法士が活躍する場所を理解する
9 10	作業療法の実践過程	作業療法の流れ（プロセス）、理論を理解する
11	作業療法の歴史	作業療法が生まれた背景、国内外の作業療法の歴史を理解する
12	世界の作業療法	日本と諸外国における作業療法の現状を理解する
13 14	作業療法の現場①	作業療法の介入の具体例を知り、作業療法とはどのようなことを行うのか、その概要を理解する
15 16	作業療法の現場②	作業療法の介入の具体例を知り、作業療法とはどのようなことを行うのか、その概要を理解する
17 18	作業療法の現場③	実際の作業療法場面を見学し、これまでの講義内容を踏まえて作業療法とはどのようなことを行うのか、その概要を理解する
19 20	作業療法の現場④	作業療法見学を復習し、作業療法とはどのようなことを行うのか、その概要を理解する
21	作業療法の現場⑤	実際の作業療法場面を見学し、これまでの講義内容を踏まえて作業療法とはどのようなことを行うのか、その概要を理解する

22	作業療法の現場⑤	実際の作業療法場面を見学し、これまでの講義内容を踏まえて作業療法とはどのようなことを行うのか、その概要を理解する
23 24	作業療法の職能団体と職業倫理	作業療法に関連する法規範、職能団体、職業倫理について理解する
25 26	言語聴覚士について	言語聴覚士とはどのような職種か理解する
27 28	計画立案 グループワーク	作業療法士や作業療法についてグループワークを通して具体的な内容を理解する
29 30	グループワーク 作業療法発表会	作業療法士や作業療法についてのプレゼンテーションを通して具体的な内容を理解し、各グループの考えを共有する また質疑応答を通して本講義を振り返る

教科書	作業療法概論テキスト（南江堂）	履修条件	30回の講義なので，7回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	作業療法概論　第４版（医学書院） 作業療法概論（中山書店）	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	レポート課題：10％ 発表内容・グループワーク：40％ 定期試験：50％		
備考			

□　選択　☑　必修		□　講義　☑　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
基礎作業療法学Ⅰ	石田　裕二	2	1	後期
授業概要	作業行為を実際に行い，作業分析・動作分析の視点を養うよう講義演習を行う 治療的介入法の一つとしての作業行為がどのように計画され遂行されるのかを論じる			
到達目標	各種の作業行為を実際に行い，作業分析・動作分析の結果から作業療法の効果を推定できるようになる　作業行為が治療として活用できるようになる			

授業計画

1	オリエンテーション１	・巨視的・包括的な「作業」の中で、作業行為がなぜ「治療」となるのか、その治療効果とは何かを、作業療法の理論的枠組みで解釈できる ・基礎作業療法学という学問領域について理解できる
2	オリエンテーション２	
3	遂行機能の解釈①	各種作業に反映する身体機能（主に上肢機能）と認知機能を踏まえた遂行機能に関する医学的知識を再確認し、以後行われる各種のActivityの治療的効果について推測できる
4	遂行機能の解釈②	
5	レザークラフト①	レザークラフトの作成計画，材料・道具の選定，制作過程を通じて，精神心理的側面および身体的側面に対する治療的効果を考えることができる 【作業行為の分析に関わる視点の例（各作業行為全般に適応）】 ・身体的側面：姿勢、関節運動や筋出力の状況、「巧緻性」という着眼点 目と手の協調　など ・精神心理的側面：持続力や集中力などの精神耐性　認知、判断能力 高次脳機能との関連　集団行動の中の自己の存在、有能感など
6	レザークラフト②	
7	レザークラフト③	
8	レザークラフト④	
9	レザークラフト⑤	
10	レザークラフト⑥	
11	籐細工①	籐細工の作成計画，材料・道具の選定，制作過程を通じて，精神心理的側面および身体的側面に対する治療的効果を考えることができる 【作業行為の分析に関わる視点の例（各作業行為全般に適応）】 ・身体的側面：姿勢、関節運動や筋出力の状況、「巧緻性」という着眼点 目と手の協調　など ・精神心理的側面：持続力や集中力などの精神耐性　認知、判断能力 高次脳機能との関連　集団行動の中の自己の存在、有能感など
12	籐細工②	
13	籐細工③	
14	籐細工④	
15	籐細工⑤	
16	籐細工⑥	
17	動作・活動分析①	各種の作業行為（Activity)を行うときに、どのような身体機能や精神心理機能が賦活されているのかを論理的に解釈することができる 前過程で行ったレザークラフトや籐細工を例に挙げ、その治療効果について論じることができる。
18	動作・活動分析②	

19	感覚統合療法①	遊具による前庭刺激や触覚刺激などの感覚入力が神経学的発達を促し、発達障害領域の治療に応用できることが理解できる
20	感覚統合療法②	
21	レクリエーション①	予測できる身体的、精神的側面への治療効果を予測し、既知の種目あるいはオリジナルな種目を立案・計画して、レクリエーション種目を計画できる　さらにレクリエーションは人間生活における重要な「作業」であり、直接的・間接的にクライアントのQOLの向上に寄与することを理解できる
22	レクリエーション②	
23	レクリエーション③	
24	レクリエーション④	
25	テーブルゲーム　①	施設や家庭内で実施できる簡単なテーブルゲームを中心に体験し，余暇活動の重要性や小集団のダイナミクスなども考慮したうえで、作業療法への適応を理解できる
26	テーブルゲーム　②	
27	動作・活動分析③④	表面筋電計を用いてactivity遂行中の筋活動を把握し治療効果を考慮できる。また、動作分析の各項目の内容や留意点を理解し，還元的要素にとらわれず全体の相互性にも注意を向けながら活動分析を行い、論理的に人間の生活行為を理解することができる
28		
29	【演習】作業活動の処方①	作業行為（Activity）を心身の治療行為に応用・活用できるように企画し、 その詳細を症状や障害別に説明・立案できるようになる 処方する作業行為に必要な器具、材料などはもとより、それを処方する際の医学的なリスクや危険防止方法なども説明できるようになる。
30	【演習】作業活動の処方②	

教科書	資料配布	履修条件	30回の講義なので，7回以上欠席すると単位が取得できない
参考書	メジカルビュー社　作業療法学第3版 ゴールドマスターテキスト　作業学	留意事項等	できるだけ欠席せず，講義に参加すること
成績評価	・レポート課題やグループ発表などの成果物を採点し評価点の一部とする ・上記の内容と受講態度を総合判定し最終評価を行う		
備考	・演習時には動きやすい服装で受講すること		

□　選択　☑　必修		□　講義　☑　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
基礎作業療法学Ⅱ	石田　裕二	2	2	前期

授業概要	人間の生活行為を作業と捉える理論的な立場から、様々な人間の作業行為を分析して、障害の治療における作業療法の重要性について論じる
到達目標	各種の作業行為を実際に行い，作業分析・動作分析，治療的側面の理論的解釈から作業療法の効果について推測できるようになる

授業計画

1	総論・作業療法の理論　①	作業療法についての理論、治療モデルなどを比較、考察し、臨床において展開される様々な治療行為の根拠が理解できるようになる
2	総論・作業療法の理論　②	
3	生体の力学的考察　①	・基本動作（寝返り、起き上がり、座位から立位、片麻痺患者の立ち上がりなど)を実習し様々な神経制御に裏打ちされた随意運動のメカニズムの概要を理解できる ・「治療的意味をもった運動の誘導」の概略を理解し，随意的な運動と自発的に行われる「作業」の治療的意味を理解できる
4	生体の力学的考察　②	
5	陶芸①	ACTIVITY　1 　使用される用具の名称や機能を学習したうえで、粘土練りから完成に至る具体的な作業工程を学び、制作工程のそれぞれの段階における身体機能や精神心理的機能や注意点などの理解を深める。また、各疾患に処方される本アクティビティにどのような治療的効果があるかを論じることができる
6	陶芸②	
7	陶芸③	
8	陶芸④	
9	木工①	ACTIVITY　2 　臨床場面で治療的に応用される木工作業において、用具の名称や機能を学習して、制作工程のそれぞれの段階における身体機能や精神心理的機能や注意点などの理解を深める。また、各疾患に処方される本アクティビティにどのような治療的効果があるかを論じることができる．また、用具によっては取り扱いに危険なものもあるので、リスク管理も含めた知識を深める
10	木工②	
11	木工③	
12	木工④	
13	木工⑤	
14	木工⑥	
15	七宝焼き①	ACTIVITY　3 　七宝焼きの用具の名称や機能を学習して、制作工程のそれぞれの段階における身体機能や精神心理的機能や注意点などの理解を深める。また、各疾患に処方される本アクティビティにどのような治療的効果があるかを論じることができる
16	七宝焼き②	
17	七宝焼き③	
18	七宝焼き④	

19	ケット手芸①	ACTIVITY　4 　制作工程のそれぞれの段階における身体機能や精神心理的機能や注意点などの理解を深める。また、各疾患に処方される本アクティビティにどのような治療的効果があるかを論じることができる
20	ケット手芸②	
21	ケット手芸③	
22	ケット手芸④	
23	織　物　①	ACTIVITY　5 　織物の製作工程それぞれの段階における身体機能や精神心理的機能や注意点などの理解を深める。また、各疾患に処方される本アクティビティにどのような治療的効果があるかを論じることができる
24	織　物　②	
25	織　物　③	
26	織　物　④	
27	タイルモザイク①	ACTIVITY　5 　使用される用具の名称や機能を学習して、制作工程のそれぞれの段階における身体機能や精神心理的機能や注意点などの理解を深める。また、各疾患に処方される本アクティビティにどのような治療的効果があるかを論じることができる
28	タイルモザイク②	
29	タイルモザイク③	
30	タイルモザイク④	

教科書	講義資料を事前に配信する	履修条件	30回の講義なので，7回以上欠席すると当該科目の単位は取得できない
参考書	医学書院：標準作業療法学「基礎作業学第3版」 メジカルビュー社　ゴールドマスターテキスト　作業学第３版	留意事項等	できるだけ欠席せず，講義に参加すること
成績評価	・30回の講義のなかで、レポート課題を出題する ・受講態度やレポートの結果を総合して成績に反映させる		
備考	・演習時には動きやすい服装で受講すること		

□　選択　☑　必修			□　講義　☑　演習　□　実習	
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
作業療法評価学演習Ⅰ	西村 大地・佐藤 速太	2	1	後期

授業概要	評価は，効果的な作業療法を実施するうえできわめて重要な作業療法プロセスに位置づけられる　本科目では，評価の意義や目的，その一連の進め方について学習する　また，作業療法における基本的検査・測定技術である形態計測法，関節可動域測定法，筋力測定法について講義および演習を通して習得する
到達目標	作業療法評価における各種検査・測定手技（形態計測，関節可動域測定，筋力測定法）を学び，その基本的手技を実施できるようになる

授業計画

1	オリエンテーションおよび評価学概論	本授業の概要，学習目標・内容，スケジュール，学習方法の説明，評価とは何かを理解できる
2	一般的評価事項	問診・観察・面接（すべての始まり）を通して，「見立て」にはどのような情報が必要か理解できる
3	形態計測　①	身長，体重，体格指数，四肢長，周径の計測を演習し，その正確な手法を習得し，測定値の臨床的意味について理解できる
4	形態計測　②	
5	関節可動域測定概論	関節可動域測定の概要について学び，方法と目的を理解できる
6	関節可動域総合演習　①	肩甲帯・肩関節のROM測定を演習し，手技を習得できる
7	関節可動域総合演習　②	前腕・手関節のROM測定を演習し，手技を習得できる
8	関節可動域総合演習　③	股・膝関節のROM測定を演習し，手技を習得できる
9	関節可動域総合演習　④	足関節のROM測定を演習し，手技を習得できる
10	関節可動域総合演習　⑤	頸部のROM測定を演習し，手技を習得できる
11	関節可動域総合演習　⑥	胸腰部のROM測定を演習し，手技を習得できる
12	関節可動域総合演習　⑦	手指のROM測定を演習し，手技を習得できる
13	関節可動域総合演習　⑧	これまでのROM測定を復習し，他者に実践できる
14	関節可動域総合演習　⑨	
15	関節可動域測定実技試験①	実技として十分な手技を習得しているか，実技試験を通して判定する
16	関節可動域測定実技試験②	
17	徒手筋力検査概論	徒手筋力検査の概要について学び，方法と目的を理解できる
18	徒手筋力検査総合演習　①	体幹・肩甲帯のMMT測定を演習し，手技を習得できる

19	徒手筋力検査総合演習　②	肩関節のMMT測定を演習し，手技を習得できる
20	徒手筋力検査総合演習　③	肩関節のMMT測定を演習し，手技を習得できる
21	徒手筋力検査総合演習　④	肘関節，前腕のMMT測定を演習し，手技を習得できる
22	徒手筋力検査総合演習　⑤	手関節，手指のMMT測定を演習し，手技を習得できる
23	徒手筋力検査総合演習　⑥	股関節のMMT測定を演習し，手技を習得できる
24	徒手筋力検査総合演習　⑦	股・膝関節のMMT測定を演習し，手技を習得できる
25	徒手筋力検査総合演習　⑧	足関節のMMT測定を演習し，手技を習得できる
26	徒手筋力検査総合演習　⑨	これまでの徒手筋力検査を復習し，他者に実践できる
27	徒手筋力検査総合演習　⑩	これまでの徒手筋力検査を復習し，他者に実践できる
28	徒手筋力検査総合演習　⑪	
29	徒手徒手筋力検査実技試験①	実技として十分な手技を習得しているか，実技試験を通して判定する
30	徒手徒手筋力検査実技試験②	

教科書	新・徒手筋力検査法　第10版（協同医書出版社） 作業療法評価学　第4版（医学書院） PT・OTのための測定評価シリーズ1 ROM測定　第3版（三輪書店）	履修条件	30回の講義なので，7回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	・運動療法のための解剖学的触診技術上肢 ・運動療法のための解剖学的触診技術体幹下肢	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	中間OSCE（30%） 期末OSCE（30%） 期末試験（40%）		
備考			

□　選択　☑　必修		□　講義　☑　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
作業療法評価学演習Ⅱ	西村 大地　石川 竜乃介	2	2	前期

授業概要	評価の意義や目的、その一連の進め方について学習する。また、作業療法における基本的検査・測定技術について講義および演習を通して習得する。
到達目標	作業療法評価を実施するために、各種検査法を理解し、実施することができる。

授業計画

1	オリエンテーション	本講義の概要と、学習方法について理解する
2	バイタルサイン	バイタルサインの目的を説明し、測定を実施する
3	反射検査	表在反射、深部反射、病的反射の目的を説明し、基本的手技を実施する
4		
5	感覚検査①	感覚検査の目的を説明し、基本的手技を実施する
6		
7	感覚検査②	感覚検査の目的を説明し、基本的手技を実施する
8		
9	協調性検査	失調や協調性障害の症状、目的を説明し、基本的手技を実施する
10		
11	筋緊張検査	筋緊張検査の目的を理解し、基本的手技を実施する
12	疼痛検査	
13	脳神経検査	脳神経検査の目的を説明し、基本的手技を実施する
14		
15	面接	面接による評価の目的を説明し、基本的手技を実施する
16		
17	プレOSCE①	各検査を他者に説明し、同意を得たうえで実施し解釈するための演習を行う
18	プレOSCE②	各検査を他者に説明し、同意を得たうえで実施し解釈するための演習を行う
19	プレOSCE③	各検査を他者に説明し、同意を得たうえで実施し解釈するための演習を行う

20	プレOSCE④	各検査を他者に説明し、同意を得たうえで実施し解釈するための演習を行う
21	中間OSCE	これまで学習した各検査のOSCEを実施する
22	中間OSCE	これまで学習した各検査のOSCEを実施する
23	運動麻痺検査①	運動麻痺検査の目的を説明し、基本的手技を実施する
24	運動麻痺検査②	運動麻痺検査の目的を説明し、基本的手技を実施する
25	運動麻痺検査③	運動麻痺検査の目的を説明し、基本的手技を実施する
26	運動麻痺検査④	運動麻痺検査の目的を説明し、基本的手技を実施する
27	プレOSCE⑤	各検査を他者に説明し、同意を得たうえで実施し解釈するための演習を行う
28	プレOSCE⑥	各検査を他者に説明し、同意を得たうえで実施し解釈するための演習を行う
29	期末OSCE	これまで学習した各検査のOSCEを実施する
30	期末OSCE	これまで学習した各検査のOSCEを実施する

教科書	作業療法評価学　第4版（医学書院）	履修条件	30回講義のため，7回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	神経診察クローズアップ：正しい病巣診断のコツ 第3版（メジカルビュー社）	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	OSCE：60％ 期末試験：40％		
備考	実技を行うことが多いため、各自動きやすい服装で参加すること。		

☐　選択　☑　必修			☐　講義　☑　演習　☐　実習	
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
作業療法評価学演習Ⅲ	佐藤速太・西村大地	2	2	後期

授業概要	障害の種類や程度を精査し具体的な問題点の抽出を図るための評価法を学ぶ　また，これまで修得した知識を整理し，技能の向上および患者とのコミュニケーション，知識の具現化を図る
到達目標	これまで学内で修得してきた知識ならびに技術の総まとめを行い，臨地実習を円滑に実施できるようになる

授業計画

1 2	上肢機能検査①	基本的な上肢機能検査であるSTEF・BBTについてその概要を学び他者に実践できる。
3 4	上肢機能検査②	脳血管疾患の上肢機能検査であるMFT、巧緻動作能力の検査であるパーデューペグボードについてその概要を学び他者に実践できる。
5 6	上肢機能検査③	新しい上肢機能検査であるARATと上肢機能の質を評価するMAL・JASMIDの概要を学び他者に実践できる。
7 8	神経心理学的検査①	高次脳機能障害の検査であるHDS-R・MMSE・TMT-Jの概要を学び他者に実践できる
9 10	神経心理学的検査②	高次脳機能障害の検査である三宅式記銘力検査・S-PA・ベントン色覚記銘検査の概要を学び他者に実践できる
11 12	神経心理学的検査③	高次脳機能障害の検査であるKOHS立方体組み合わせテスト・レーブン色彩マトリックス検査の概要を学び他者に実践できる
13 14	神経心理学的検査④	高次脳機能障害の検査であるBIT・FAB検査の概要を学び他者に実践できる
13 14	神経心理学的検査⑤	作業に焦点を当てた介入を可視化するCOPM・CAODの概要を学び実践できる
15 16	神経心理学的検査⑤	高次脳機能障害の検査であるBADSの概要を学び他者に実践できる

17	神経心理学的検査⑥	高次脳機能障害の検査である日本版リバーミード行動記憶検査・慶應版ウィスコンシンカード分類検査の概要を学び他者に実践できる
18		
19	神経心理学的検査⑦	高次脳機能障害の検査であるWMS-R・WAIS-Ⅳの概要を学び他者に実践できる
20		
21	神経心理学的検査⑧	高次脳機能障害の検査であるWMS-R・WAIS-Ⅳの概要を学び他者に実践できる
22		
23	総合演習Ⅰ－①	模擬症例と作業療法士を学生が演じ，疾患の理解と評価項目の立案を行うことができる(整形外科疾患症例・脳血管疾患症例)
24	総合演習Ⅰ－②	
25	総合演習Ⅰ－③	模擬症例と作業療法士を学生が演じ，評価を実践することができる(整形疾患症例)
26	総合演習Ⅰ－④	
27	総合演習Ⅰ－⑤	模擬症例と作業療法士を学生が演じ，評価を実践することができる(脳血管疾患症例)
28	総合演習Ⅱ－⑥	

教科書	・作業療法評価学(標準作業療法学　専門分野)	履修条件	30回の講義なので，7回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	授業内で適宜提示	留意事項等	実技練習は適宜行うこと
成績評価	・レポート，口頭試問，演習課題並びに取り組み状況，出席を総合的に判断し成績に反映する.		
備考			

☐ 選択 ☑ 必修			☐ 講義 ☑ 演習 ☐ 実習	
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
作業療法研究法	千葉　馨・古館　裕大	1	2	後期

授業概要	作業療法における研究方法について意義を知り，その方法を理解できるよう講義演習を行う
到達目標	作業療法における研究方法について意義を知り，その方法を理解できる

授業計画

1	EBMと文献検索	Evidence Based Medicine(Physical Therapy)の概要を理解できる．また，Google Scholarを用いた論文検索の方法を理解できる．
2	医療統計学復習	統計的仮説検定と多変量解析を復習し理解できる．
3	研究法演習①…観察研究	第4回…横断研究のデザインを理解でき，論文を解釈できる 第5回…ケースコントロール研究のデザインを理解でき，論文を解釈できる 第6回…前向きコホート研究のデザインを理解でき，論文を解釈できる 第7回…後ろ向きコホート研究のデザインを理解でき，論文を解釈できる
4		
5		
6		
7	研究法演習②…介入研究	第8, 9回…介入研究のデザインを理解でき，論文を解釈できる
8		
9	研究法演習③…総合演習	第10, 11回…自分で論文を検索し，研究デザインと統計解析の内容を理解できる
10		
11	医療DX教育演習… MLモデリング演習	Python言語を自分のPCの導入でき，基本的な文法を理解できる
12		ロジスティック回帰モデルを用いたクラスの予測の考え方を理解できる
13		重回帰モデルを用いた値の予測の考え方を理解できる
14		決定木を用いたクラスの予測・値の予測の考え方を理解できる
15		機械学習を取り入れたデータ解析の仕方を理解できる．特に，交差検定法の考え方を理解できる

教科書	資料を配布する	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	医療系研究論文の読み方・まとめ方 - 論文のPECOから正しい統計的判断まで,東京図書株式会社,2011	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	中間試験レポート，期末試験レポート，日々の課題から総合的に判断する		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
運動器障害作業療法治療学	野田　正貴	1	2	後期

授業概要	ADLに影響する運動器障害，その背景にある各種の疾患について医学的な視点で理解を深め，具体的なリハビリテーションの技術について論じる
到達目標	運動器障害に対する作業療法の目的や手法を理解する

授業計画

1	オリエンテーション	運動器障害の概要と作業療法との関わりを理解する
2	RA	RAの病態を理解し，介入の目的と方法を理解する
3	骨折・変性疾患①	上肢の骨折や変形疾患の病態を理解し，介入の目的と方法を理解する
4	骨折・変性疾患②	下肢の骨折や変形疾患の病態を理解し，介入の目的と方法を理解する
5	脱臼	脱臼の病態と代表疾患を理解し，介入の目的と方法を理解する
6	末梢神経損傷①	末梢神経損傷の分類・病態・症状・検査について理解する
7	末梢神経損傷②	各末梢神経損傷の病態と症状，介入について理解する
8	腱損傷	手指の腱損傷において病態と介入を理解する
9	肩①	肩関節周囲組織損傷の概要と肩関節運動について理解する
10	肩②	人口肩関節置換術・腱板損傷の病態と介入を理解する
11	CRPS・コンパートメント症候群	CRPS・コンパートメント症候群の病態と介入を理解する
12	脊椎疾患①	OPLL・LCSの病態と介入を理解する
13	脊椎疾患②	椎間板ヘルニア・すべり症・側弯症についての病態と介入を理解する
14	症例検討①	模擬症例に対して評価項目と問題点の抽出を行うことができる
15	症例検討②	模擬症例に対して評価項目と問題点の抽出を行うことができる

教科書	・15レクチャーシリーズ　理学療法学テキスト 運動療法学　中山書店	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	・病気がみえる vol.11 運動器・整形外科 メディックメディア ・リハ実践テクニック ハンドセラピィ メディカルビュー社	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テスト，課題，定期テストの結果と出席率を総合して成績に反映させる		
備考			

□　選択　☑　必修		□　講義　☑　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
運動器障害作業療法治療学演習	大井　雅人	1	2	後期

授業概要	ADL影響する運動器障害，その背景にある各種の疾患について医学的な視点で理解を深め， 演習を通じて具体的な作業療法の技術について論じる
到達目標	運動器障害に対する具体的な作業療法を理解し技術を習得する

授業計画

1	骨・筋の障害　①	関節可動域（ROM）に影響する各種疾患，障害について理解する
2	骨・筋の障害　②	運動学的視点から関節運動を把握しアセスメントの方法を理解する
3	骨・筋の障害　③	具体的な上肢関節のROMの治療について演習しその技術を習得する
4	骨・筋の障害　④	具体的な体幹・下肢のROMの治療について演習しその技術を習得する
5	骨・筋の障害　⑤	手の外科の後療法（ハンドセラピー）について演習をもとに理解できる
6	変形を伴う疾患	骨折，捻挫，脱臼などへの具体的な治療について演習しその技術を習得する
7	治療法　①	末梢神経障害の原因，症状・障害の分類について理解する
8	脊髄損傷　①	筋力低下，筋委縮のの原因となる疾患について理解する
9	脊髄損傷　②	徒手的治療法について学び，，機能的作業療法の技術を習得する
10	脊髄損傷　③	高位診断，フィジカルアセスメントの具体的な手法を理解する
11	脊髄損傷　④	運動機能障害に対する徒手的な治療について学びその手法を理解する
12	治療法　②	残存機能とADL機能の関係性を評価できるようになる
13	病態学　①	具体的なADL訓練を学び，症状に応じた対応ができるようになる
14	病態学　②	ロコモーティブシンドロームの概念を理解できる
15	病態学　③	整形外科領域の仮想症例の情報を整理し治療計画を立案できるようになる

教科書	検討中	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
神経障害作業療法治療学	西村　大地	1	2	後期

授業概要	リハビリテーションの中核的対象となる神経障害について深く学び，治療技術を臨床に反映できるよう実践的な内容を学ぶ
到達目標	様々な神経症候を医学的に解釈・統合し具体的な治療に反映できるようになる

授業計画

1	オリエンテーション 治療学総論	脳卒中における作業療法治療・介入方法の概要を学ぶ
2	脳血管障害の作業療法①	脳卒中における評価、治療の推奨や予後予測を学ぶ
3	脳血管障害の作業療法②	急性期における作業療法を学ぶ
4	脳血管障害の作業療法③	回復期における作業療法を学ぶ
5	脳血管障害の作業療法④	FMAについて学ぶ
6	脳血管障害の作業療法⑤	FMAについて実践する
7	脳血管障害の作業療法⑥	生活期における作業療法を学ぶ
8	脳血管障害の作業療法⑦	脳卒中急性期におけるリスク管理の概略を学ぶ
9	頭部外傷	頭部外傷の作業療法の治療を学ぶ
10	認知症	認知症の分類、認知症を呈する疾患について基本的な理解を深める
11	神経筋疾患	ギランバレー、多発性硬化症、重症筋無力症の作業療法を学ぶ
12	神経変性疾患①	パーキンソン病の作業療法を学ぶ
13	神経変性疾患②	脊髄小脳変性症、筋委縮側索硬化症の作業療法を学ぶ
14	神経障害作業療法の実際①	評価の要約、目標、治療計画、プログラムなど一連のプロセスを学ぶ
15	神経障害作業療法の実際②	

教科書	身体機能作業療法学　第4版（医学書院）	履修条件	15回の講義なので，3回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	脳卒中　基礎知識から最新リハビリテーションまで（医歯薬出版株式会社）	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	期末試験100％		
備考			

□　選択　☑　必修		□　講義　☑　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
神経障害作業療法治療学演習	佐藤　速太	1	2	後期

授業概要	神経障害作業療法治療学で学習する知識をふまえ，具体的なリハビリテーションについて論じ，臨床的な評価，治療の技能を身に着けることができるよう演習する
到達目標	様々な神経障害患者への機能的作業療法や生活リハビリテーションを計画，実施することができるようになる

授業計画

1	基本動作　①	片麻痺患者におけるポジショニング、寝返りの分析と介入方法を理解できる
2	基本動作　②	片麻痺患者における起き上がり、座位の分析と介入方法を理解できる。
3	基本動作　③	片麻痺患者における立ち上がり、移乗の分析と介入方法を理解できる。
4	機能的作業療法　①	中枢神経性麻痺に対する評価を理解し、アプローチ方法を理解できる
5	機能的作業療法　②	中枢神経性麻痺に対するアプローチ（徒手運動、机上課題）が理解できるようになる
6	機能的作業療法　③	
7	機能的作業療法　④	
8	運動麻痺の評価	FMAとBRSとの関連性を理解し、運動麻痺の程度を正しく評価できる。
9	運動麻痺に対する治療技術①	運動麻痺へのアプローチに使用される技術、器具について理解できる。
10	運動麻痺に対する治療技術②	電機刺激療法について理解し、他者へ実践できる。
11	感覚障害に対する治療技術	感覚障害に対するアプローチについて理解し、介入計画を立案できる。
12	ADL障害に対する治療技術①	ADL動作（セルフケア）に対するアプローチについて理解し、介入計画を立案できる。
13	ADL障害に対する治療技術②	
14	総合演習	設定した症例について、治療計画を立案し、模擬的に実践できる。
15		

教科書	検討中	履修条件	15回の講義なので，3回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	15レクチャーシリーズ理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜レポート課題を実施する ・レポート課題と期末試験を実施し、総合的に成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
内部障害作業療法治療学	石田　裕二	1	2	後期

授業概要	高齢者や在宅のクライエントによくみられる内部障害について深く学び，治療技術を臨床に反映できるように実践的かつ臨床的な内容を学ぶ
到達目標	様々な内科的問題を医学的に解釈・統合し具体的な治療に反映できるようになる

授業計画

1	オリエンテーション	作業療法士が深くかかわる内部障害（内科系疾患）と、リハビリテーションの目的について理解できる
2	バイタルサインと内部障害	バイタルサインについて、呼吸・脈拍・血圧・聴診法の意義と方法を理解できる
3	喀痰と吸引	喀痰と吸引の臨床的意義と方法を理解できる
4	褥瘡と体位変換	褥瘡の処置と関わりについて理解できる
5	経管栄養及び感染対策	点滴、胃ろう、経鼻栄養、清潔区域（滅菌消毒ガウンテクニック）、感染予防について理解できる
6	糖尿病　①	糖尿病（高血糖症）の病理や内科的治療について理解できる
7	糖尿病　②	糖尿病に対する運動指導，生活指導, 作業療法全般について理解できる
8	腎疾患	慢性腎不全の病態，透析患者へのアプローチについて理解できる
9	がん	緩和ケアを含めたがんへの対応，QOLをふまえた介入法について理解できる
10	呼吸器疾患　①	呼吸不全の循環器への影響，酸塩基平衡の生活行為に対する影響について説明できる
11	呼吸器疾患　②	慢性呼吸器疾患に対するリハビリテーションについて説明できる
12	循環器疾患　①	虚血性心疾患の特徴を理解し説明できる
13	循環器疾患　②	多くの臨床情報をもとに全身状態のアセスメントできるようになる
14	高齢者の運動機能障害　①	長期臥床や廃用の影響を評価し治療プログラムを立案できる
15	高齢者の運動機能障害　②	フレイルやサルコペニアについてそれらの概念を理解できる

教科書	なるほどなっとく内科学改訂2版 南山堂	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	必要に応じて提示する	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☑　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
内部障害作業療法治療学演習	大井　雅人	1	2	後期
授業概要	内部障害作業療法治療学で学習した知識を基盤として，具体的なリハビリテーションについて論じ，臨床的な評価，治療の技能，喀痰吸引の技術を身に着けることができるよう演習する			
到達目標	様々な内科系疾患から派生する内部障害への具体的なリハビリテーションを計画，実施することができるようになる			

授業計画

1	糖尿病　①	糖尿病に対する機能的作業療法の介入，生活指導のシュミレーションができる
2	糖尿病　②	糖尿病患者の在宅リハのマネージメントができる
3	腎疾患	慢透析患者への具体的なアプローチを理解できる
4	悪性腫瘍	悪性腫瘍の種類や進行度，生命予後を踏まえたアプローチ，緩和ケアを含めた具体的な介入法について理解できる
5	呼吸器疾患　①	各種の計測機器（聴診器やパルスオキシメーターなど）を使った評価ができるようになる
6	呼吸器疾患　②	呼吸リハビリテーションについて実践を通じて経験し理解を深める
7	循環器疾患　①	運動負荷試験を実践し呼吸器と循環器の機能的関連性について理解できる
8	循環器疾患　②	循環器疾患と全身状態との関係を医学的に説明できる
9	循環器疾患　③	心筋梗塞の回復過程に即したADL指導ができるようになる
10	高齢者の運動機能障害	廃用症候群をアセスメントし治療計画を立案できるようになる
11	訪問看護　①	在宅クライエントに対する看護アセスメントの概略が理解できる
12	訪問看護　②	在宅クライエントに対する具体的な看護業務について理解できる
13	高齢者の運動機能障害　①	長期臥床、廃用症候群などへの治療的介入法について理解できる
14	高齢者の運動機能障害　②	フレイルやサルコペニアに対する作業療法プログラムについて理解できる
15	まとめ	内部障害によるQOLの低下に対する作業療法士の介入手段について理解できる

教科書	検討中	履修条件	15回の講義なので，3回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

□　選択　☑　必修		☑　講義　□　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
精神障害作業療法治療学Ⅰ	要垣内　千尋	1	2	前期
授業概要	作業療法の視点において評価の観点から疾患への理解を深め，実践できる姿勢を養えるよう講義を行う			
到達目標	評価の観点から疾患への理解を深め，実践できるようになる			

授業計画		
1	気分障害　①	うつ病の疾患特性，評価の視点を考えることができる
2	気分障害　②	躁病・双極性障害の疾患特性，評価の視点を考えることができる
3	統合失調症　①	統合失調症の疾患特性，評価の視点を考えることができる
4	統合失調症　②	統合失調症に関連する疾患の特性，評価の視点を考えることができる
5	パーソナリティ障害　①	パーソナリティ障害の分類と特徴を理解することができる
6	パーソナリティ障害　②	パーソナリティ障害の分類と特徴から，評価の視点を考えることができる
7	神経症性障害，ストレス関連障害・身体表現性障害	各種疾患を深く理解し，評価の視点を考えることができる
8	生理的障害及び身体要因に関連した行動症候群	各種疾患を深く理解し，評価の視点を考えることができる
9	発達障害　①	発達障害の特性を深く理解し，評価の視点を考えることができる
10	発達障害　②	発達障害の特性を深く理解し，評価の視点を考えることができる
11	認知症　①	各種認知症の分類と特徴を理解することができる
12	認知症　②	認知症の分類と特徴から，評価の視点を考えることができる
13	てんかん	てんかんの特徴，発作，症状を深く理解し，評価の視点を考えることができる
14	精神作用物質による精神及び行動の障害	各種疾患を深く理解し，評価の視点を考えることができる
15	前頭葉障害	疾患を深く理解し，評価の視点を考えることができる

教科書	精神科作業療法の理論と技術	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	標準精神医学第7版, 精神障害作業療法第2版	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テスト（中間・期末）の結果を総合して成績に反映させる		
備考			

函館市医師会看護・リハビリテーション学院　作業療法学科

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☑　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
精神障害作業療法治療学Ⅱ	非常勤講師	1	2	後期

授業概要	各疾患の基本的知識を踏まえ，作業療法の実践的思考が養えるよう講義を行う
到達目標	各疾患の治療について考え，治療計画を立てられるようになる

授業計画

1	精神障害総論　①	種々の作業療法に関する理論，作業療法を取り巻く制度等を述べられる
2	精神障害総論　②	種々の作業療法に関する理論，作業療法を取り巻く制度等を述べられる
3	統合失調症の作業療法　①	事例をもとに統合失調症の回復段階毎の作業療法を述べられる
4	統合失調症の作業療法　②	事例をもとに統合失調症に関連する疾患の作業療法を述べられる
5	気分障害の作業療法　①	事例をもとにうつ病についての作業療法を，回復段階毎に述べられる
6	気分障害の作業療法　②	事例をもとに躁病・双極性障害についての作業療法を述べられる
7	神経症性障害の作業療法	事例をもとに神経症性障害についての作業療法を述べられる
8	パーソナリティ障害の作業療法	事例をもとに各種パーソナリティ障害への対応と作業療法を述べられる

教科書	精神科作業療法の理論と技術	履修条件	8回の講義なので，3回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・8回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
発達障害作業療法治療学	服部 範行　野澤 綾子　田縁 友博	1	2	後期

授業概要	発達障害学で学習する内容を作業療法の視点で深く掘り下げて学び，発達障害児（者）の治療について考えることができるよう講義を行う
到達目標	発達障害児（者）に対する作業療法の方法や治療効果について考えることができる

授業計画

1	発達障害とは	発達障害の概念および様々な新生児疾患の概要について理解し，それらと作業療法との関係が理解できる。また，NICUにおける治療についても概略を理解できる
2	脳性麻痺の作業療法	脳性麻痺のタイプ・病理・症状などについて理解を深め，作業療法の適応が理解できる
3	重症心身障害児の作業療法	重症心身障害児（者）の作業療法の必要性について説明できる
4	進行性筋ジストロフィの作業療法	進行性筋ジストロフィの種類・病態などの知識を深め，具体的な作業療法についてその意義や目的を臨床的に説明できる
5	骨関節疾患の作業療法	先天性骨関節疾患や二分脊椎の病理や症状の知識を深め，それらに対する作業療法について説明できる
6	知的発達障害の作業療法	知的発達障害児（者）の特徴および作業療法について理解できる
7	自閉症スペクトラム・発達性協調運動症の作業療法	不器用さを持つ児（者）の特性と支援について理解する
8	内部障害の作業療法	様々な小児領域の内部障害について理解を深め，それらに対する作業療法について説明できる
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書	シンプル理学療法学シリーズ小児理学療法学テキスト改定第3版	履修条件	8回の講義なので，3回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	適宜提示する	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☑　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
発達障害作業療法治療学演習	服部 範行　野澤 綾子　田縁 友博	1	2	後期
授業概要	発達障害作業療法治療学で学ぶ内容を深く掘り下げて学び，具体的な治療について実践できるよう演習を含めて授業を行う			
到達目標	発達障害児（者）に対する作業療法の臨床実践的な治療について理解することができる			

授業計画

1	新生児疾患の作業療法	周産期の障害を深く理解し，NICUにおける作業療法士の活動について理解できる
2	脳性麻痺の作業療法	脳性麻痺児への（諸家の治療理論による）アプローチの概要を理解し，基本的な運動療法的介入法を実践できる
3	重症心身障害児の作業療法	重複障害を伴う重症心身障害児に対する作業療法について，その目的・方法を理解し実践できる
4	進行性筋ジストロフィの作業療法	進行性筋ジストロフィの病理・分類・症状の特徴を理解し，機能的アプローチを含めた作業療法について理解を深める
5	骨関節疾患の作業療法	小児領域の骨関節疾患や二分脊椎の病理・症状などの医学的知識を学習し，年齢や生活環境に即した具体的な作業療法を実践できる
6	感覚統合療法	自閉症スペクトラム，学習障害，注意欠陥多動障害（ADHD）の患者に対応する「感覚統合療法」についてその概略が理解し、実践できる
7	内部障害の作業療法	小児の内部障害・小児がんの病理・種類を学習し，作業療法士の取り組みについて理解を深める
8	症例検討	提示された仮想症例に対する評価・治療プログラムを演習の中で計画し，臨床的な技能を習得する
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書	シンプル理学療法学シリーズ小児理学療法学テキスト改定第3版	履修条件	8回の講義なので，3回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	適宜提示する	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
老年期作業療法治療学	石川　竜乃介	1	2	後期

授業概要	加齢に伴う心身機能の変化の特徴，疾患や障害について理解し，全人間的な介入法を考えられるように講義を行う
到達目標	老年期の心身機能の特徴，生活習慣や環境，QOLの維持向上に直結する役割行動などを理解し，具体的な作業療法や在宅リハについて考察できるようになる

授業計画

1	総論	老年期の心身機能の変化について，その概略が理解できる
2	高齢者の社会的役割	人生経験を積み上げた高齢者の役割の重要性について理解できる
3	社会活動の重要性	社会交流の場を保証し，QOLの維持向上に向けた作業療法士の取り組みについて理解できる
4	高齢者の生活について	稼働年齢をこえた高齢者の生活活動について，様々なパターンを類推し，高齢者の心身の健康について理解できる
5	高齢者の心理	高齢者の心理について理解できる
6	高齢者の心肺機能	高齢者の心肺機能や背景にある内部疾患などについて理解できる
7	高齢者の自律神経機能	若年者と比較した高齢者の自律神経機能について理解できる
8	高齢者の筋力について	高齢者の筋力について，サルコペニアを例に挙げて低運動による障がいの本質を理解できる
9	高齢者の栄養状態	高齢者の栄養状態について学習し，在宅リハにおける具体的なアセスメントや指導内容について理解できる
10	高齢者の代謝	生理学的視点から高齢者の代謝機能の特徴について理解できる
11	高齢者に対する作業療法①	虚弱高齢者に対する作業療法について，具体例を通して理解できる
12	高齢者に対する作業療法②	高齢者のADLについて，具体例を通して理解できる
13	高齢者に対する作業療法③	認知症の病態と作業療法の介入について理解できる
14	高齢者に対する作業療法④	高齢者の「生きがい・楽しみ」について，その本質を理解できる
15	高齢者に対する作業療法⑤	高齢者の運転に関する種々の問題について，作業療法の視点から考察できる

教科書	高齢期作業療法学　標準作業療法学（医学書院）	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
補装具学	小池　拓馬	1	2	前期

授業概要	補装具についての概要を理解し、解剖、運動、生理学などとの関連性。また疾患との関係性、適応を理解できるように進めていく
到達目標	補装具についてい必要な解剖、生理、運動学を把握し、病態に応じた、適切な補装具を選定できるようになる

授業計画

1	装具概論①	授業の概要についてオリエンテーションを行った後に、補装具に関しての概論を学習し理解できる
2	装具概論②	補装具に関する解剖学的知識（肩関節および肘関節）
3	装具概論③	補装具に関する解剖学的知識（前腕）
4	装具概論④	補装具に関する解剖学的知識（手関節以遠）
5	装具概論⑤	補装具に関する解剖学的知識（下肢・体幹）
6	装具概論⑥	補装具と運動学、生理学について学習し理解できる
7	装具概論⑦	補装具に関する体表解剖と形態計測について学習し理解できる
8	疾患別①	疾患別に見た補装具（RA）について学習し理解できる
9	疾患別②	疾患別に見た補装具（糖尿病）について学習し理解できる
10	義手　①	上腕義手について学習し理解できる
11	義手　②	前腕義手について学習し理解できる
12	義手　③	手義手に関して学び、理解する
13	義足	義足について学習し理解できる
14	その他補装具	その他の補装具（車椅子・杖など）について学習し理解できる
15	支給制度	補装具に関する制度について学習し理解できる

教科書	シンプル理学療法学シリーズ 義肢装具学テキスト　改定第3版	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	切断と義肢　　医歯薬出版 補装具費支給事務ガイドブック（公益財団法人テクノエイド協 リハ実践テクニック　ハンドセラピィ　メジカルビュー社　斎藤慶一郎編	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義後に課題を行い到達度の確認を実施する ・到達度確認の提出と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

□　選択　☑　必修		□　講義　☑　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
補装具学演習	小池　拓馬	1	2	後期

授業概要	補装具学で学習した基礎的な知識をもとに，具体的に障害への適応ついてのディスカッション，スプリントの作成，車椅子のチェックアウトなどを行う
到達目標	各種障害に適応する補装具の機能と臨床適応について理解できる

授業計画

1	導入　①	中枢神経障害の症状と補装具の適応について確認できる
2	導入　②	末梢障害の症状と補装具の適応について確認できる
3	ハンドセラピー	各種障害・疾患に呈する具体的な手の外科について概要を学び，後療法に適応する補装具について理解できる
4	補装具の適応　①	上肢の補装具について理解できる
5	補装具の適応　②	静的・動的スプリントの適応を理解できる
6	補装具の適応　③	下肢の補装具について理解できる
7	補装具の適応　④	体幹機能障害とそれに対応する補装具について説明できる
8	補装具の適応　⑤	具体的にスプリントを作成しその方法を理解できる
9	義手　①	上腕義手の部位名称や精密な構造について説明できる
10	義手　②	前腕義手の部位名称や精密な構造について説明できる
11	義足　①	股義足の部位名称や精密な構造について説明できる
12	義足　②	大腿義足の部位名称や精密な構造について説明できる
13	義足　③	下腿義足の部位名称や精密な構造について説明できる
14	車いす　①	様々な車いすの機種とその適応について理解できる
15	車椅子　②	シーティングアセスメントを体験しその方策について説明できる

教科書	検討中	履修条件	15回の講義なので，４回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐ 選択 ☑ 必修		☑ 講義 ☐ 演習 ☐ 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
日常生活活動学	石川　竜乃介	1	2	前期

授業概要	リハビリテーションの目標である日常生活活動（Activities of Daily Living：ADL）について各障害の形態を理解した上で対象者の個別性を考慮した創造的な練習や支援を考える基礎となる。基礎疾患や障害等の基礎知識に基づいた生活および活動を促す方法を学ぶ。
到達目標	各疾病の病態と生じる障害像の基礎的な知識を十分に学び、生活行為を構成する諸要素について理解できる。対象者の個別性を考慮し主体的に生活を支援する方法を学習する。

授業計画

1	ADLの概念と範囲	ADLの概念と範囲、生活機能から見たADLの位置づけついて理解できる
2	ADL評価	ADL評価の種類と評価ポイントについて理解できる
3	ADLと基本動作	ADL拡大に必要な基本動作の基礎的知識とリハビリテーション的視点を理解できる
4	脊髄損傷のADL 1	脊髄損傷の損傷レベル、残存機能と症状の基本を学び、評価とリハビリテーションに連動したADL（起居動作方法）について理解できる
5	脊髄損傷のADL 2	残存機能に応じたADLと生活環境について理解できる
6	脊髄損傷のADL 3	残存機能における活動状況に応じたIADL拡大の方法を理解できる
7	脳卒中片麻痺のADL 1 【中間テスト】	脳卒中の病態及び障害と片麻痺のADL評価残存機能における活動状況に応じた医療福祉デバイスを理解できる
8	脳卒中片麻痺のADL 2	高次脳機能障害によるADLへの影響および脳卒中ADLの予後予測を検討し、治療計画および支援方法の概要を理解できる
9	関節リウマチのADL	関節リウマチの病態と必要な日常生活動作方法および環境を理解できる
10	運動器疾患のADL	人工関節や関節疾患の慢性疼痛を持つ人々のADLについて理解できる
11	上肢運動器疾患のADL	上腕・前腕・手・手指に発症する運動器疾患の病態とADL支援方法について理解できる
12	パーキンソン病のADL	パーキンソン病を中心とした神経難病の病態と予後を理解し、身体活動状況に応じたADLについて理解できる
13	認知症のADL	認知症の種類と特徴を理解し、ADLへの影響や適切な関わり方を理解できる
14	内部疾患のADL	心疾患・呼吸器疾患によるADLへの影響と支援方法について理解できる
15	回復期及び在宅における ADL指導	対象領域における対象者の居住地及び目標とする拠点を考慮したADL指導について理解できる

教科書	クリニカル作業療法シリーズ 日常生活活動の作業療法　中央法規	履修条件	全講義の1/5を欠席すると単位を取得できない
参考書	授業資料内に紹介する	留意事項等	小テスト実施。授業で行った部分の理解・知識の補完を行うこと(範囲は授業内で提示)
成績評価	中間・期末試験を対象とする(中間2：期末8)。その他、授業態度および提出物も成績の対象とする。 60点以上「C評定」より単位修得となる		
備考	授業終了後の理解度アンケート、授業前の小テスト等を実施する。 積極的な質問を歓迎する。		

□　選択　☑　必修		□　講義　☑　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
日常生活活動学演習	石川　竜乃介	1	2	後期

授業概要	各疾患や障害の動作に対して分析的に観察し，表出することができ，治療的に系統立てた考えを持つことができるよう講義演習を行う
到達目標	各疾患や障害の動作に対して分析的に観察し，表出することができ，治療的に系統立てた考えを持つことができる

授業計画

1	動作分析とは　①	動作分析について理解し，分析的な視点を持つことができる
2	動作分析とは　②	動作分析について理解し，分析的な視点を持つことができる
3	姿勢について	姿勢について理解し，分析的な視点を持つことができる
4	座位について	座位について理解し，分析的な視点を持つことができる
5	立位について	立位について理解し，分析的な視点を持つことができる
6	寝返り	寝返りについて理解し，分析的な視点を持つことができる
7	起き上がり	起き上がりについて理解し，分析的な視点を持つことができる
8	立ち上がり　座位から	座位からの立ち上がりについて理解し，分析的な視点を持つことができる
9	立ち上がり　床から	床からの立ち上がりについて理解し，分析的な視点を持つことができる
10	歩行　①	歩行について理解し，分析的な視点を持つことができる
11	歩行　②	歩行について理解し，分析的な視点を持つことができる
12	ADL動作　①	ADL動作について理解し，分析的な視点を持つことができる
13	ADL動作　②	ADL動作について理解し，分析的な視点を持つことができる
14	症例検討　①	症例検討で動作分析をはじめとした評価を行い治療計画ができる
15	症例検討　②	症例検討で動作分析をはじめとした評価を行い治療計画ができる

教科書	クリニカル作業療法シリーズ　日常生活活動の作業療法(中央法規) 基本動作の評価と治療アプローチ(メディカルビュー)	履修条件	15回の講義なので，４回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
高次脳機能障害学	西村　大地	1	2	前期

授業概要	脳損傷に起因する高次脳機能障害の病態や症状、評価方法、リハビリテーションについて学ぶ
到達目標	脳機能について理解し、高次脳機能障害の病態や症状、評価、リハビリテーションについて説明できる

授業計画

1	高次脳機能総論	授業の構成および成績評価に関するオリエンテーション、高次脳機能障害とはなにか学ぶ
2	大脳の機能局在と障害	大脳の機能局在や各部位の障害、脳動脈の支配領域について学ぶ
3	脳画像と高次脳機能障害	脳に関連する画像（CT・MRI）の見方や脳部位の同定方法について学ぶ
4	高次脳機能障害の評価	高次脳機能障害の評価の原則やプロセス、阻害要因を学ぶ
5	半側空間無視	半側空間無視の症状特性、神経心理学的検査、リハビリテーションについて学ぶ
6	注意障害	全般性注意障害の症状特性、神経心理学的検査、リハビリテーションについて学ぶ
7	記憶障害	記憶障害の症状特性、神経心理学的検査、リハビリテーションについて学ぶ
8	視覚モダリティーにおける失認と関連症状①	視覚モダリティーにおける失認と関連症状の特性、神経心理学的検査、リハビリテーションについて学ぶ
9	視覚モダリティーにおける失認と関連症状②	視覚モダリティーにおける失認と関連症状の特性、神経心理学的検査、リハビリテーションについて学ぶ
10	失認・失読・失書	失認・失読・失書の症状特性、神経心理学的検査、リハビリテーションについて学ぶ
11	失行	失行の症状特性、神経心理学的検査、リハビリテーションについて学ぶ
12	遂行機能障害	遂行機能障害の症状特性、神経心理学的検査、リハビリテーションについて学ぶ
13	社会的行動障害	社会的行動障害の症状特性、神経心理学的検査、リハビリテーションについて学ぶ
14	認知症	認知症の症状特性、神経心理学的検査、リハビリテーションについて学ぶ
15	高次脳機能障害における法律や社会制度	高次脳機能障害における法律や社会制度について理解し、必要な支援やアプローチについて学ぶ

教科書	高次脳機能障害学　第3版 （医歯薬出版株式会社）	履修条件	15回の講義なので，４回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	高次脳機能障害作業療法学（医学書院）	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	中間試験：20％ 期末試験：80％		
備考			

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☑　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
リハビリテーション工学演習	工藤達也・石川竜乃介・古館裕大	1	2	前期
授業概要	リハビリテーション領域で急激に進みつつあるDX（医療DX）について，その基盤となる技術に触れる．本科目は医療DX教育を成す科目の1つである．			
到達目標	医療DXの基礎を成す技術に触れることができる．特に，①電気回路や3DCADを学ぶことで医療に役立つ製品を安価に自作できること，②ヒトの動作計測・解析を行うソフトを理解できる．			

授業計画

1	電子工作演習	フローチャートの描き方とmicro:bitのプログラミングの復習ができる
2		スマホとmicro:bitを連携したプログラムの作り方を理解できる
3		ブレッドボードの仕組みを理解でき，LEDを点灯する回路を作れる
4		スイッチと組み合わせて，LEDを点灯する回路を作れる．特に，スイッチによって"かつ"や"または"のロジックを作ることができる．
5		センサマットの作成を通して，医療に役立つ製品を安価に自作できることを理解できる．
6	3Dモデリング演習	Tinkercadの基本操作を理解できる．特に，図形の足し算について理解でき，複数の立体を結合できる．
7		図形の引き算について理解し，立体に穴を開けたり，立体を削ることができる．
8		図形の足し算と引き算により，自分の思い通りの3Dモデルを作成できる．
9		自助具を題材とし，既存の自助具の調査・問題提起を行い，問題の解決に至る3Dモデルを作成できる．また，一連の流れを発表会にて発表できる．
10		
11	MLモデリング演習	本演習で用いるプログラム開発環境（VSCode）を導入できる．また，Python言語の基本的な文法を理解できる．
12		OpenCVを用いたソフトウェアの利用を通して，ヒトの動作を自動で測定する方法を理解できる．
13		測定したヒトの動作について，Pythonを用いてグラフを書くことができる．また，様々な動作を測定し，グラフから動作の特徴を運動学的に考察できる．
14		測定したヒトの動作を特徴量化するプログラムが書ける．また，その特徴量から，測定した動作がどのようなものであるかを運動学的に考察できる．
15	リハビリテーション工学関連トピック（医療福祉工学）	医療と工学の複合領域についてAIやロボットを事例として，どのように開発されて臨床応用されているかについて理解できる

教科書	特に無し	履修条件	講義・演習ではPCを使用する．4回以上欠席すると単位を取得できない
参考書	特に無し	留意事項等	日常的にPCを利用し，PCの扱いに慣れ親しんでおく事
成績評価	中間レポート，期末レポート，課題により総合的に評価		
備考			

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☑　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
コミュニケーション方法論演習	平塚　健太	1	1	後期

授業概要	現在はコミュニケーションの方法は多様化している　それぞれのコミュニケーション方法についての使用例から，さらに社会人としての伝達方法であるプレゼン，レポート，レジュメ作成までを理解し，実施できるよう学んでほしい（手紙の書き方も含める）
到達目標	それぞれのコミュニケーション方法についての使用例から，さらに社会人としての伝達方法であるプレゼン，レポート，レジュメ作成までを理解し，実施できる

授業計画

1	コミュニケーションとは	コミュニケーションの定義と必要性を理解できる
2	コミュニケーションの種類	様々なコミュニケーション方法について提示し，適用と適用外について述べる
3	傾聴と質問	話の聞き方および質問の仕方を理解できる
4	会話のルールと質問の仕方	会話のルールやマナー・良質な質問を理解し、実践できる
5	異文化コミュニケーションと他者理解	様々な価値観を受け入れ、価値観を共有することができる
6	レポートの書き方	レポートの書き方について理解し，実践できる
7	資料の作り方とプレゼンテーション①	相手に伝わりやすい資料の作り方・プレゼンテーションを理解できる
8	資料の作り方とプレゼンテーション②	相手に伝わりやすい資料の作り方・プレゼンテーションを理解し、実践できる

教科書	資料を配布する	履修条件	PCを使用する 15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	適宜	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
リハビリテーション管理学Ⅰ	佐藤　速太	1	2	前期

授業概要	業務を実施するにあたり，リスクマネジメントや組織運営の観点からの個人の在り方までメタ認知を高めて行動できるよう講義を行う
到達目標	業務を実施するにあたり，リスクマネジメントや組織運営の観点から，職場における個人の在り方について考えることができる

授業計画

1	作業療法管理学　総論	作業療法管理学の概念や背景について理解できる
2	医療機関の分類と組織	医療機関の分類や組織構成・役割について理解できる
3	医療保険制度	作業療法業務に必要な医療保険制度について理解できる
4	介護保険制度と社会保障	作業療法業務に必要な介護保険制度と社会保障制度について理解できる
5	介護予防の取り組み	地域の介護予防対策をセラピストの視点から考え、述べることができる
6	診療・介護報酬制度①	リハビリテーション分野における収益構造を理解できる
7	診療・介護報酬制度②	リハビリテーション分野における収益構造を理解できる
8	組織	組織やチームについて理解できる

教科書	リハビリテーション管理・運営実践ガイドブック	履修条件	8回の講義なので，3回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	適宜提示	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・8回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☐　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
リハビリテーション管理学Ⅱ	西村　大地	1	2	後期

授業概要	管理・マネジメントについて職場から症例について範囲を広げて考えることができよう講義を行う
到達目標	作業療法士の臨床現場における管理・マネージメント，リスク管理について，視野を広げて考えることができる

授業計画

1	オリエンテーション セルフマネジメント	目標の立て方、時間の利用方法、自己研鑽の必要性、他職種を理解する姿勢、所属外の繋がり、理論についての重要性を理解することができる。
2	マネジメントとは	マネジメントについて、マネジメントの重要性について理解することができる。
3	マネジメントに役立つ メソッド～コーチング～	コーチングについて理解することができる
4	マネジメントに役立つ メソッド～CCS～	CCSについて理解することができる
5	チームマネジメント	リーダーシップ、環境設定、チームとしてのモチベーションの向上について、カンファレンスや計画書の活用、交渉スキル、クレームへの対応についての重要性を理解することができる
6	管理・運営	管理者とはなにか、必要な能力、収益管理、施設管理、リスク管理、労務管理、労働衛生管理、書類管理、教育システム、会計管理、人材マネジメントについてを理解することができる
7	診療ガイドラインと法的責任	診療ガイドラインと法的責任について理解することができる
8	まとめ	各回の授業について振り返り、内容をまとめることができる

教科書	特に指定しない（適宜資料を配布する）	履修条件	８回の講義なので，３回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	リハビリテーション　リスク管理ハンドブック　第4版 （メジカルビュー社） 作業で結ぶマネジメント：作業療法士のための自分づくり・	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	小テスト（35%） グループワーク（15%） レポート課題（50%）		
備考			

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☑　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
地域作業療法学演習Ⅰ	大橋　悠介	1	1	前期
授業概要	在宅において医療・福祉サービスを必要のする対象者（特に高齢者）の医学的問題点に触れ，函館市，道南地域のいける在宅リハビリテーションの重要性について論じる			
到達目標	作業療法士・理学療法士の地域活動についてその概略が理解できるようになる			

授業計画

1	総論　①	地域リハビリテーションの概略について理解できる
2	総論　②	函館市，道南地域の医療・福祉がどのように展開されているか理解できる
3	総論　③	地域での医療保険制度と介護保険制度に関して
4	総論　④	函館市，道南地域の地域医療，在宅リハビリテーションの必要性が理解できる
5	総論　⑤	様々な障がいを持つ対象者に対する在宅リハにおけるOT・PTの業務や多職種連携について理解できる
6	高齢者の心身機能　①	サルコペニア、ロコモティブシンドローム、フレイルとは何かが理解できる
7	高齢者の心身機能　②	在宅高齢者に行われる心身機能の評価を理解できる
8	高齢者の心身機能　③	バイタル測定の実技（血圧）
9	高齢者の心身機能　④	バイタル測定の実技（打腱器、血圧）
10	高齢者の心身機能　⑤	地域でのリハビリを行うためのICFに関して理解できる
11	高齢者の心身機能　⑥	在宅で生活する為の福祉用具に関して理解できる
12	健康寿命　①	認知症の概要と在宅生活に関して理解できる
13	健康寿命　②	脳血管疾患の概要と在宅生活に関して理解できる
14	健康寿命　③	骨折、パーキンソン病の概要と在宅生活に関して理解できる
15	地域作業療法とQOL	地域社会における「その人らしい生活」とは心理面等を理解できる

教科書	適宜授業時に資料を配布する	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	地域作業療法学　第4版（医学書院） 高齢期作業療法学　第4版（医学書院）	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

□　選択　☑　必修		□　講義　☑　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
地域作業療法学演習Ⅱ	溝部　和	1	1	後期

授業概要	地域リハビリテーションを展開するうえで必要不可欠な基本的動作を実践的な立場から論じ，演習を通じて理解を深める
到達目標	具体的な在宅リハビリテーションの業務を理解し，実際の現場で使用できるようにする

授業計画

1	コミュニケーション①	在宅でのコミュニケーションの必要性・重要性を理解する
2	コミュニケーション②	在宅でのコミュニケーションの必要性・重要性を理解する
3	基本動作　起居①	起居活動の制限に対する地域作業療法介入の目的を理解できる
4	基本動作　起居②	寝返り動作の基本パターンを理解し援助方法を習得する
5	基本動作　起居③	起き上がり動作の基本パターンを理解し援助方法を習得する
6	基本動作　起居④	起立動作の基本パターンを理解し援助方法を習得する
7	基本動作　起居⑤	移乗動作の基本パターンを理解し援助方法を習得する
8	基本動作　起居⑥	総合演習・復習
9	基本動作　移動①	屋内外での移動制限に対する地域作業療法介入の目的を理解できる
10	基本動作　移動②	歩行動作に対する援助方法を習得する
11	基本動作　移動③	移動動作を分割して考える
12	在宅でのADL①	ADLに注目した地域作業療法介入の目的を理解できる
13	在宅でのADL②	排泄動作や入浴動作に対する援助方法を習得する
14	在宅でのADL③	在宅でのADLを分割して考えることができる
15	在宅でのADL④	在宅でのADLを分割して考えることができる

教科書	資料を配布する	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と中間テスト、定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考	・実技が中心となるため、動きやすい服装で講義に望むこと		

☐　選択　☑　必修		☑　講義　☑　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
地域作業療法学演習Ⅲ	溝部　和	1	2	前期
授業概要	地域作業療法学演習Ⅱで学習した基礎的な内容をふまえ，具体的な臨床技術を演習の中で経験させ，在宅リハにおける作業療法士の臨床活動について論じる			
到達目標	様々な対象者の症状を医学的にとらえ，在宅リハビリテーションにおけるセラピストの活動が理解できるようになる			

授業計画

1	基本動作　移動①	屋内外での移動制限に対する地域作業療法介入の目的を理解できる
2	基本動作　移動②	歩行動作に対する援助方法を習得する
3	基本動作　移動③	移動動作を分割して考える
4	在宅でのADL①	ADLに注目した地域作業療法介入の目的を理解できる
5	在宅でのADL②	排泄動作や入浴動作に対する援助方法を習得する
6	在宅でのADL③	在宅でのADLを分割して考えることができる
7	在宅でのADL④	在宅でのADLを分割して考えることができる
8	症例検討①	地域での症例でリスクマネジメントなどの実際を学ぶ
9	症例検討②	
10	フィジカルアセスメント総論①	訪問リハビリテーション場面における危険予測トレーニングを通じてフィジカルアセスメント（PA）の概要を理解することができる
11	フィジカルアセスメント総論②	フィジカルイグザミネーション（PE）とフィジカルアセスメント（PA）の違いや問診の重要性、また、これらより得た情報を統合し評価（解釈）することができる
12	フィジカルアセスメント総論③	生理学的・病理学的視点から根拠をもって全身状態を判断することの重要性を感じフィジカルアセスメント（PA）の意義を理解することができる
13	バイタルサイン	バイタルサイン（体温・脈拍・血圧・呼吸）を計測する意義や方法について理解することができる
14	頭頸部のアセスメント	顔面の視診、甲状腺や頭頸部リンパ節のアセスメントについて理解することができる
15	呼吸器系のアセスメント	呼吸器系の解剖生理を把握していることを前提に、問診、視診、触診（体表解剖）、聴診、打診することの意義や方法について理解する事ができる

教科書	フィジカルアセスメントが見える	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	リハビリテーションリスク管理ハンドブック	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☑　演習　☐　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
地域作業療法学演習Ⅳ	溝部　和	1	2	後期

授業概要	地域でリスク管理、と地域介護予防で講師を行う上で必要なスキルを身に着け論じることが出来る
到達目標	地域予防事業で必要な知識を身に着け発表することが出来る

授業計画

1	循環系のアセスメント	循環器系の解剖生理を把握した上で問診、視診することの意義や方法について理解するとともに抹消循環器系のアセスメントについて理解することができる
2	地域の考え方とリスクマネジメント	高齢者が地域で生活を継続する為の視点を学び、それに伴うリスクマネジメントを理解することができる
3	多職種連携と職域	地域でかかわる多職種を理解することで、セラピストの役割を理解できる
4	地域の職域と介護保険制度	地域での活動内容から広域な職域を理解し、それに必要な介護保険の基本理念などを理解できる
5	介護保険制度による住環境整備Ⅰと使用方法	介護保険制度を利用した住環境の整備を学び、ADL。QOLの向上に結びつける事が出来る。また車椅子やベッドマットの使用方法を理解できる。
6	介護保険制度による住環境整備Ⅱ	介護保険制度を利用した住環境の整備を学び、ADL。QOLの向上に結びつける事が出来る
7	介護保険制度による住環境整備Ⅲ	介護保険制度を利用した住環境の整備を学び、ADL。QOLの向上に結びつける事が出来る。また歩行器等の使用方法を理解できる。
8	介護保険制度による住環境整備Ⅳ	介護保険制度を利用した住環境の整備を学び、ADL。QOLの向上に結びつける事が出来る
9	在宅で必要な介護技術	実際の場面で必要となる介護方法や家族への指導方法を理解することが出来る
10	地域介護予防の実際と実践①	地域介護予防事業の実際を学び現状の地域包括ケアを理解する また、グループワークにて課題に対してのプレゼンテーションを実際に作成する
11	地域介護予防の実際と実践②	
12	地域介護予防の実際と実践③	
13	地域介護予防 プレゼンテーション発表①	課題に対してまとめたものを各グループワーク毎に30分で発表し お互いに学習し理解することができる
14	地域介護予防 プレゼンテーション発表②	
15	地域介護予防 プレゼンテーション発表③	

教科書	資料配布	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書		留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

□　選択　☑　必修		□　講義　☑　演習　□　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
作業療法学総論Ⅰ	石田裕二　千葉馨　西村大地 佐藤速太　石川竜乃介	1	3	前期

授業概要	臨床実習前の演習として，心構えや知識技術の補完をする
到達目標	実習の心構えを自覚し，作業療法士としての基礎的な臨床技能を確立する

授業計画

1	作業療法総論	既習の知識を統合し，作業療法の目的，対象，評価・治療の概要を確立できる
2	面接・導入	医師の処方から作業療法導入に至るまでの流れと作業療法士の動きについて理解できる
3	トップダウンアプローチ①	いわゆるトップダウンアプローチの考え方，基盤となる理論について，具体的な例から理解できる
4	トップダウンアプローチ②	トップダウンアプローチにおける評価から導き出された情報を，作業療法プログラムの立案に応用できるようになる
5	ボトムアップアプローチ①	いわゆるボトムアップアプローチの考え方，基盤となる理論について，具体的な例から理解できる
6	ボトムアップアプローチ②	ボトムアップアプローチにおける評価から導き出された情報を，作業療法プログラムの立案に応用できるようになる
7	医学モデルと生活モデル	クライアントの医学的情報と生活環境の情報（職業，趣味，生活パターンなど）をもとに，作業療法プログラムを組み立てることができる
8	ADLとIADL	具体的な動作分析・活動分析を演習し，臨床現場におけるADLへの考え方を統合できる
9	高次脳機能障害	既習の高次脳機能障害の評価と治療手技について復習し，臨床能力を高める
10	身体障害領域の作業療法	身体障害領域の作業療法について総括し，具体的に評価・治療ができる
11	発達障害領域の作業療法	発達障害領域の作業療法について総括し，具体的に評価・治療ができる
12	精神障害領域の作業療法	精神障害領域の作業療法について総括し，具体的に評価・治療ができる
13	老年期障害の作業療法	老年期障害（虚弱，サルコペニア，認知症など）の作業療法について総括し，具体的に評価・治療ができる
14	総括　①	診療記録の作成の方法，リハビリテーションカンファレンスへの対応など，実践的な演習の中で作業療法士としてのアイデンティティを高める
15	総括　②	既習の学習内容を総括し，各領域の作業療法士の役割について理解を深める

教科書	既存の教科書を適宜使用する	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる		
備考			

□　選択　☑　必修			☑　講義　□　演習　□　実習	
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
作業療法学総論Ⅱ	石田裕二　千葉馨　西村大地 佐藤速太　石川竜乃介	2	3	後期

授業概要	3年間の集大成として学べるよう講義を展開する
到達目標	治療技術に直接活かせるような基礎・臨床医学の知識，作業療法専門分野の知識を再学習し，臨床能力を高め，その成果を国家試験対策に反映させることができる

授業計画

1	基礎・臨床医学領域： 骨格系の構造と機能　①	骨の発生学，微細構造，形状，骨機能，骨疾患について理解できる
2	基礎・医学領域 骨格系の構造と機能　②	関節の形状とその動き，運動器疾患について理解できる
3	基礎・臨床医学領域 筋の構造と機能　①	筋の種類，収縮のメカニズム，エネルギー代謝・筋疾患などを理解できる
4	基礎・臨床医学領域 筋の構造と機能　②	筋の支配神経，神経筋接合部の機能，関節運動と筋収縮の関係などを理解できる
5	基礎・臨床医学領域 神経系　①	中枢神経の構造と機能，中枢神経障害による病態について理解できる
6	基礎・臨床医学領域 神経系　②	末梢神経の構造と機能，末梢神経障害による病態について理解できる
7	基礎・臨床医学領域 神経系　③	脊髄疾患，脊髄損傷の病態，自律神経の構造と機能について理解できる
8	基礎・臨床医学領域 内臓系　①　呼吸循環器	呼吸器・循環器構造と機能．それらの障害を惹起する代表的な疾患について理解できる
9	基礎・医学領域 内臓系　②　消化器	消化器に分類される臓器の構造と機能，代表的な疾患について理解できる
10	基礎医学領域 内臓系　③　排泄	腎臓・膀胱の構造と機能，代表的な疾患とその症状について理解できる
11	基礎・臨床医学領域 内分泌系	内分泌器官の構造と機能，代表的な疾患とその症状について理解できる
12	基礎・臨床医学領域 先天性疾患	様々な遺伝病，周産期異常など，代表的な先天性疾患の症状について理解できる
13	基礎・臨床医学領域 精神医学　①	精神障害領域の疾患と治療について理解できる
14	基礎・臨床医学領域 精神医学　②	てんかん，認知症について理解できる
15	基礎・臨床医学領域 小児科学領域	発達障害も含め小児科領域の疾患について理解できる
16	基礎・臨床医学領域 臨床心理学	防衛機制，心理療法，各種検査について理解できる
17	基礎・臨床医学領域 リハビリテーション医学	障害分類（ICF），障害受容，ユニバーサルデザインなどについて理解できる

18	基礎・臨床医学領域 制度関連	理学療法士・作業療法士法，介護保険などの法制・制度を理解できる
19	基礎・臨床医学領域 公衆衛生	感染予防，医療制度など，臨床現場に即した知識を習得する
20	基礎・臨床医学領域 診断学　　①	脳の画像診断学について理解できる
21	基礎・臨床医学領域 診断学　　②	胸部，腹部，四肢の画像診断学について理解できる
22	基礎・臨床医学領域 診断学　　③	異常心電図の判読，心疾患の診断について理解する
23	基礎・臨床医学領域 臨床薬理学	様々な症状に適応する薬剤について理解できる
24	基礎・臨床医学領域 生化学検査	生化学的検査による正常基準と異常所見を惹起する疾患について理解できる
25	基礎・臨床医学領域 PE・PA	フィジカルアセスメントに関連する各事項について理解できる
26	専門領域　①	身体障害領域の作業療法について，その目的と方法を理解できる
27	専門領域　②	精神障害領域の作業療法について，その目的と方法を理解できる
28	専門領域　③	発達障害領域の作業療法について，その目的と方法を理解できる
29	専門領域	老年期障害領域の作業療法について，その目的と方法を理解できる
30	まとめ	作業療法の源流となる各種の理論について，理解を深める

教科書	既存の教科書を適宜使用する	履修条件	30回の講義なので，7回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・30回の講義の中で数回小テストを行い，模擬試験の結果も勘案したうえで，各々の成績の合算により総合的に判定する		
備考			

☐　選択　☑　必修			☑　講義　☐　演習　☐　実習	
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
作業療法学総論Ⅲ	石田裕二　千葉馨　西村大地 佐藤速太　石川竜乃介	2	3	後期

授業概要	3年間の集大成として学べるよう講義を展開する
到達目標	・筋骨格系の知識を日常生活の動作と結び付け、動作分析について理解できる。

授業計画

1	基礎・臨床医学領域 臨床心理学　①	発達段階と発達課題について理解できる
2	基礎・臨床医学領域 臨床心理学　②	防衛機制，障害受容，記憶について理解できる
3	基礎・臨床医学領域 臨床心理学　③	心理療法，各種検査について理解できる
4	基礎・臨床医学領域 リハビリテーション概論	障害分類（ICF），ユニバーサルデザインについて理解できる
5	基礎・臨床医学領域 公衆衛生	標準予防策，一時救命処置などのリスク管理について理解できる
6	基礎・臨床医学領域 制度関連	理学療法士および作業療法士法，介護保険などの法制・制度を理解できる
7	基礎・臨床医学領域 病理学　①	免疫，感染症について理解できる
8	基礎・臨床医学領域 病理学　②	腫瘍，老化について理解できる
9	基礎・臨床医学領域 病理学　③	炎症，創傷治癒について理解できる
10	基礎・臨床医学領域 老年医学	サルコペニア，フレイル，廃用症候群について理解できる
11	基礎・臨床医学領域 病理学　③	内分泌器官の構造と機能，代表的な疾患とその症状について理解できる
12	基礎・臨床医学領域 診断学　①	脳の画像診断学について理解できる
13	基礎・臨床医学領域 診断学　②	胸部，腹部，四肢の画像診断学について理解できる
14	基礎・臨床医学領域 診断学　③	異常心電図の判読，心疾患の診断について理解する
15	基礎・臨床医学領域 臨床薬理学	様々な症状に適応する薬剤について理解できる
16	基礎・臨床医学領域 生化学検査	生化学的検査による正常基準と異常所見を惹起する疾患について理解できる
17	基礎・臨床医学領域 PE・PA	フィジカルアセスメントに関連する各事項について理解できる

18	専門領域 生体力学　①	てこの原理，モーメントなどの運動力学について理解できる
19	専門領域 生体力学　②	正常歩行の特徴および歩行周期と筋活動，歩行率について理解できる
20	専門領域 生体力学　③	異常歩行の特徴およびその原因について理解できる
21	専門領域 生体力学　④	姿勢，基本動作における運動学的特徴について理解できる
22	専門領域 運動療法学　①	運動学習の理論と学習方法，患者教育について理解できる
23	専門領域 運動療法学　②	関節可動域訓練およびストレッチングの理論と方法について理解できる
24	専門領域 運動療法学　③	筋力増強訓練の理論と方法について理解できる
25	専門領域 運動療法学　④	運動における呼吸，循環，代謝などの生体反応について理解できる
26	専門領域 物理療法学　①	温熱療法の種類，適応と禁忌，実施方法について理解できる
27	専門領域 物理療法学　②	寒冷療法の種類，適応と禁忌，実施方法について理解できる
28	専門領域 物理療法学　③	超音波療法の種類，適応と禁忌，実施方法について理解できる
29	専門領域 物理療法学　④	電気刺激療法の種類，適応と禁忌，実施方法について理解できる
30	専門領域 物理療法学　⑤	水治療法および牽引療法の適応と禁忌，実施方法について理解できる

教科書	既存の教科書を適宜使用する	履修条件	30回の講義なので，7回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・30回の講義の中で数回小テストを行い，模擬試験の結果も勘案したうえで，各々の成績の合算により総合的に判定する		
備考			

□　選択　☑　必修			☑　講義　□　演習　□　実習	
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
作業療法学総論Ⅳ	石田裕二　千葉馨　西村大地 佐藤速太　石川竜乃介	2	3	後期

授業概要	3年間の集大成として学べるよう講義を展開する
到達目標	治療技術に直接活かせるような基礎・臨床医学の知識，作業療法専門分野の知識を再学習し，臨床能力を高め，その成果を国家試験対策に反映させることができる

授業計画

1	基礎・臨床医学領域： 骨格系の構造と機能　①	骨の発生学，微細構造，形状，骨機能，骨疾患について理解できる
2	基礎・医学領域 骨格系の構造と機能　②	関節の形状とその動き，運動器疾患について理解できる
3	基礎・臨床医学領域 筋の構造と機能　①	筋の種類，収縮のメカニズム，エネルギー代謝・筋疾患などを理解できる
4	基礎・臨床医学領域 筋の構造と機能　②	筋の支配神経，神経筋接合部の機能，関節運動と筋収縮の関係などを理解できる
5	基礎・臨床医学領域 神経系　①	中枢神経の構造と機能，中枢神経障害による病態について理解できる
6	基礎・臨床医学領域 神経系　②	末梢神経の構造と機能，末梢神経障害による病態について理解できる
7	基礎・臨床医学領域 神経系　③	脊髄疾患，脊髄損傷の病態，自律神経の構造と機能について理解できる
8	基礎・臨床医学領域 内臓系　①　呼吸循環器	呼吸器・循環器構造と機能．それらの障害を惹起する代表的な疾患について理解できる
9	基礎・医学領域 内臓系　②　消化器	消化器に分類される臓器の構造と機能，代表的な疾患について理解できる
10	基礎医学領域 内臓系　③　排泄	腎臓・膀胱の構造と機能，代表的な疾患とその症状について理解できる
11	基礎・臨床医学領域 内分泌系	内分泌器官の構造と機能，代表的な疾患とその症状について理解できる
12	基礎・臨床医学領域 先天性疾患	様々な遺伝病，周産期異常など，代表的な先天性疾患の症状について理解できる
13	基礎・臨床医学領域 精神医学　①	精神障害領域の疾患と治療について理解できる
14	基礎・臨床医学領域 精神医学　②	てんかん，認知症について理解できる
15	基礎・臨床医学領域 小児科学領域	発達障害も含め小児科領域の疾患について理解できる
16	基礎・臨床医学領域 臨床心理学	防衛機制，心理療法，各種検査について理解できる
17	基礎・臨床医学領域 リハビリテーション医学	障害分類（ICF），障害受容，ユニバーサルデザインなどについて理解できる

18	基礎・臨床医学領域 制度関連	理学療法士・作業療法士法，介護保険などの法制・制度を理解できる
19	基礎・臨床医学領域 公衆衛生	感染予防，医療制度など，臨床現場に即した知識を習得する
20	基礎・臨床医学領域 診断学　　①	脳の画像診断学について理解できる
21	基礎・臨床医学領域 診断学　　②	胸部，腹部，四肢の画像診断学について理解できる
22	基礎・臨床医学領域 診断学　　③	異常心電図の判読，心疾患の診断について理解する
23	基礎・臨床医学領域 臨床薬理学	様々な症状に適応する薬剤について理解できる
24	基礎・臨床医学領域 生化学検査	生化学的検査による正常基準と異常所見を惹起する疾患について理解できる
25	基礎・臨床医学領域 PE・PA	フィジカルアセスメントに関連する各事項について理解できる
26	専門領域　①	身体障害領域の作業療法について，その目的と方法を理解できる
27	専門領域　②	精神障害領域の作業療法について，その目的と方法を理解できる
28	専門領域　③	発達障害領域の作業療法について，その目的と方法を理解できる
29	専門領域	老年期障害領域の作業療法について，その目的と方法を理解できる
30	まとめ	作業療法の源流となる各種の理論について，理解を深める

教科書	既存の教科書を適宜使用する	履修条件	30回の講義なので，7回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・30回の講義の中で数回小テストを行い，模擬試験の結果も勘案したうえで，各々の成績の合算により総合的に判定する		
備考			

☐　選択　☑　必修			☐　講義　☐　演習　☑　実習	
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
臨床実習Ⅰ	石田裕二　千葉馨　西村大地 佐藤速太　石川竜乃介	1	1	後期
授業概要	臨床教育者のクリニカルクラークシップの要領による指導により，病院・施設における　作業療法士の臨床活動を見学する			
到達目標	実習施設における職員の連携の様子を見学し，また，実際に患者や利用者と関わる中で，障害像や作業療法士の職務について理解を深めることができる			

授業計画

1	
2	
3	
4	1単位（40時間）で行う臨床実習Ⅰ（見学実習）を通して，作業療法士の職務について理解を深める． 臨床場面における作業療法士の活動，他のリハビリテーション関連職種との連携業務を見学し，リハビリテーション業務の全体像を理解する．また，臨床教育者の指導により，患者（利用者）と個別にコミュニケーションをとり，大まかな障害像を把握できるように学習する．
5	
6	本実習では，それぞれ臨床実習前の評価及び臨床実習後の評価を行う．
7	臨床実習前の評価（８時間）により，どのような態度・視点で見学実習に臨めば目標を達成できるのかを学ぶ．患者（利用者）との接し方，臨床教育者とのコミュニケーションのとりかた，当該実習施設の役割や使命，リハビリテーション部門の大まかな業務の流れ（処方・評価・治療など），作業療法士の具体的な業務，などを事前に学習し，自分で本実習の目標を立てることができるようになる．
8	
9	臨床実習後の評価（８時間）では，臨床実習Ⅰで学び得たことを発表し，他の学生からの質疑を通して到達目標を達成できたかを確認する．
10	
11	
12	
13	
14	
15	

教科書	既存の教科書を適宜使用する	履修条件	全日程の1/5以上欠席すると単位を認定しない
参考書	既存の教科書，ノート，ジャーナルなどの参考資料を有効に利用すること	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	臨床実習前の評価，臨床実習後の評価，実習記録，課題等の成果物などを総合的に判断し評価する		
備考			

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☐　演習　☑　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
臨床実習Ⅱ	石田裕二　千葉馨　西村大地 佐藤速太　石川竜乃介	1	2	前期
授業概要	臨床教育者のクリニカルクラークシップの要領による指導により，訪問リハビリテーション及び通所リハビリテーションにおける作業療法士の臨床活動を見学する			
到達目標	実習施設における職員の連携の様子を見学し，また，実際に患者や利用者と関わる中で，障害像や作業療法士の職務について理解を深めることができる			

授業計画

1	
2	
3	
4	1単位（40時間）で行う臨床実習Ⅱ（地域在宅見学実習）を通して，作業療法士の職務について理解を深める．在宅場面における作業療法士の活動，他のリハビリテーション関連職種との連携業務を見学し，リハビリテーション業務の全体像を理解する．また，臨床教育者の指導により，患者（利用者）と個別にコミュニケーションをとり，大まかな障害像を把握できるように学習する．
5	
6	本実習では，それぞれ臨床実習前の評価及び臨床実習後の評価を行う．
7	臨床実習前の評価（８時間）により，どのような態度・視点で見学実習に臨めば目標を達成できるのかを学ぶ．患者（利用者）との接し方，臨床教育者とのコミュニケーションのとりかた，当該実習施設の役割や使命，リハビリテーション部門の大まかな業務の流れ（処方・評価・治療など），作業療法士の具体的な業務，などを事前に学習し，自分で本実習の目標を立てることができるようになる．臨床実習後の評価（８時間）では，臨床実習Ⅰで学び得たことを発表し，他の学生からの質疑を通して到達目標を達成できたかを確認する．
8	
9	
10	指定規則に則り，通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションに関する実習を１単位（40時間）以上行うこととする
11	
12	
13	
14	
15	

教科書	既存の教科書を適宜使用する	履修条件	全日程の1/5以上欠席すると単位を認定しない
参考書	既存の教科書，ノート，ジャーナルなどの参考資料を有効に利用すること	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	臨床実習前の評価，臨床実習後の評価，実習記録，課題等の成果物などを総合的に判断し評価する		
備考			

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☐　演習　☑　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
臨床実習Ⅲ	石田裕二　千葉馨　西村大地 佐藤速太　石川竜乃介	3	2	後期
授業概要	臨床教育者のクリニカルクラークシップの要領による指導により，病院・施設における作業療法士の指導の下，見学・模倣の中で各種検査法の実習を行う			
到達目標	病院・施設における作業療法士の具体的な臨床活動，特に様々な障害に対応する各種の検査法について理解を深める			

授業計画

1	
2	
3	
4	3単位（120時間）で行う臨床実習Ⅲ（検査実習）を通して，作業療法士が対象者の検査をどのように実施しているかを見学・模倣を通して理解を深める．臨床指導者の指導により，各障害に対応する適切な検査法を選択し，患者（利用者）にそれを正確な手技で実施できるようになる．
5	
6	
7	本実習ではそれぞれ臨床実習前の評価及び臨床実習後の評価を行う． 臨床実習前の評価（24時間）により，どのような技能を身に着けて実習に臨めば目標を達成できるのかを学ぶ．患者（利用者）との接し方，疾患・障害を理解するための情報収集の方法，対象者に応じた具体的な検査方法，その検査結果が示す健常者との相違点など，作業療法士が行っている検査法を事前に学習し，自分で本実習の目標を立てることができるようになる．
8	
9	臨床実習後の評価（16時間）では，本実習で学び得たことを発表し，他の学生からの質疑を通して到達目標を達成できたかを確認する．
10	
11	
12	
13	
14	
15	

教科書	既存の教科書を適宜使用する	履修条件	全日程の1/5以上欠席すると単位を認定しない
参考書	既存の教科書，ノート，ジャーナルなどの参考資料を有効に利用すること	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	臨床実習前の評価，臨床実習後の評価，実習記録，課題等の成果物などを総合的に判断し評価する		
備考			

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☐　演習　☑　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
臨床実習Ⅳ	石田裕二　千葉馨　西村大地 佐藤速太　石川竜乃介	9	3	前期
授業概要	臨床教育者のクリニカルクラークシップの要領による指導により，病院・施設における作業療法士の指導の下，見学・模倣・実施のプログラムの中で治療学実習を行う			
到達目標	病院・施設における作業療法士の具体的な一連の臨床活動（治療的介入）を見学・模倣・実施を通じて体験し，理解することができる			

授業計画

1	
2	
3	
4	９単位（360時間）で行う臨床実習Ⅳ（総合実習）を通して，作業療法士が対象者の検査をどのように実施しているかを見学・模倣を通して理解を深める．臨床指導者の指導により，各障害に対応する適切な検査法を学びそれを正確な手技で実施できるようになる．この情報をもとに治療計画を立てて治療プログラムを考えることができる。
5	
6	
7	本実習ではそれぞれ臨床実習前の評価及び臨床実習後の評価を行う． 臨床実習前の評価（24時間）により，どのような技能を身に着けて実習に臨めば目標を達成できるのかを学ぶ．患者（利用者）との接し方，疾患・障害を理解するための情報収集の方法，対象者に応じた具体的な検査方法，その検査結果が示す健常者との相違点など，作業療法士が行っている検査法を事前に学習し，自分で本実習の目標を立てることができるようになる． 臨床実習後の評価（16時間）では，本実習で学び得たことを発表し，他の学生からの質疑を通して到達目標を達成できたかを確認する．
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

教科書	既存の教科書を適宜使用する	履修条件	全日程の1/5以上欠席すると単位を認定しない
参考書	既存の教科書，ノート，ジャーナルなどの参考資料を有効に利用すること	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	臨床実習前の評価，臨床実習後の評価，実習記録，課題等の成果物などを総合的に判断し評価する		
備考			

☐　選択　☑　必修		☐　講義　☐　演習　☑　実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
臨床実習Ⅴ	石田裕二　千葉馨　西村大地 佐藤速太　石川竜乃介	9	3	前期
授業概要	臨床教育者のクリニカルクラークシップの要領による指導により，病院・施設における作業療法士の指導の下，見学・模倣・実施のプログラムの中で治療学実習を行う			
到達目標	病院・施設における作業療法士の具体的な一連の臨床活動（治療的介入）を見学・模倣・実施を通じて体験し，理解することができる			

授業計画

1	
2	
3	
4	９単位（360時間）で行う臨床実習Ⅴ（総合実習）を通して，作業療法士が対象者の検査をどのように実施しているかを見学・模倣を通して理解を深める．臨床指導者の指導により，各障害に対応する適切な検査法を学びそれを正確な手技で実施できるようになる．この情報をもとに治療計画を立てて治療プログラムを考えることができる。
5	
6	
7	本実習ではそれぞれ臨床実習前の評価及び臨床実習後の評価を行う． 臨床実習前の評価（24時間）により，どのような技能を身に着けて実習に臨めば目標を達成できるのかを学ぶ．患者（利用者）との接し方，疾患・障害を理解するための情報収集の方法，対象者に応じた具体的な検査方法，その検査結果が示す健常者との相違点など，作業療法士が行っている検査法を事前に学習し，自分で本実習の目標を立てることができるようになる． 臨床実習後の評価（16時間）では，本実習で学び得たことを発表し，他の学生からの質疑を通して到達目標を達成できたかを確認する．
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

教科書	既存の教科書を適宜使用する	履修条件	全日程の1/5以上欠席すると単位を認定しない
参考書	既存の教科書，ノート，ジャーナルなどの参考資料を有効に利用すること	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	臨床実習前の評価，臨床実習後の評価，実習記録，課題等の成果物などを総合的に判断し評価する		
備考			